

4 回目（歩いて4巡目）の

「四国へんろ」

〔松陰・六部・童財善子〕もどき

～スルーハイク・ドキュメンタリー～

（山形県山形市内の大沼^{かおる}香）

「四国108か寺霊場順礼 歩きへんろ：通し・逆打ち」

かんぽ 貫(完)歩記録

(正味59連泊60日間)

		2024（令和6）年／75歳		
前行程	自宅発	4月9日(火)		
本番行程	現地 108か寺参拝	4月10日(水)～6月2日(日)	54日間	door-to-door 65日間
	高野山往復	6月3日(月)～6月9日(日)	7日間	
	1番→88番	6月10日(月)～6月11日(火)	2日間	
後行程	自宅着	6月12日(水)		
現地63日中の3日間は滞留日につき、現地対応正味期間は60日間				
備考	108か寺の通し・順打ち、終了後、引き続き高野山奥の院まで往復した。			

だいこう ろうこん
大香ブランド老魂サブタイトルは、
「終息前夜祭 四国へんろ逆順大作戦」

本書は、実地踏査中の歩いている時に浮かんで来た諸々の雑念を少し整理して、自分の中のもう一人の自分（影）に対する報告書、自家撞着問答集です、遊び心をランダムに並べて書いたものです。あの世に持って行く自分史の一端です。

.....

この間における様々な出来事は山ほどありますが、本書は要点を記述したものです。本書は、実地踏査中の歩いている時に浮かんで来た諸々の雑念を少し整理して自分の中のもう一人の自分（影）に対する報告書、自家撞着問答集です、遊び心をランダムに並べて書いたものです。あの世に持って行く自分史の一端です。

.....

なお、誤字脱字や日本語文法上の間違いがあるはずですが、本書は世に問うものではないので、考え方や過ちを指摘されても、批評・批判されても浅学菲才の私にとって、如何ともし難く詮無いことです、性格（性質）の投影故にこれを以って私の限界です。

可笑しな処おかに気付いた場合は、読み手のお方が、その聡明な頭脳を以って、自由に解釈して貰えればいいし、想像力と創造力を逞しく発揮し、ご自分の世界へ反映して貰えればそれで結構でございます。

.....

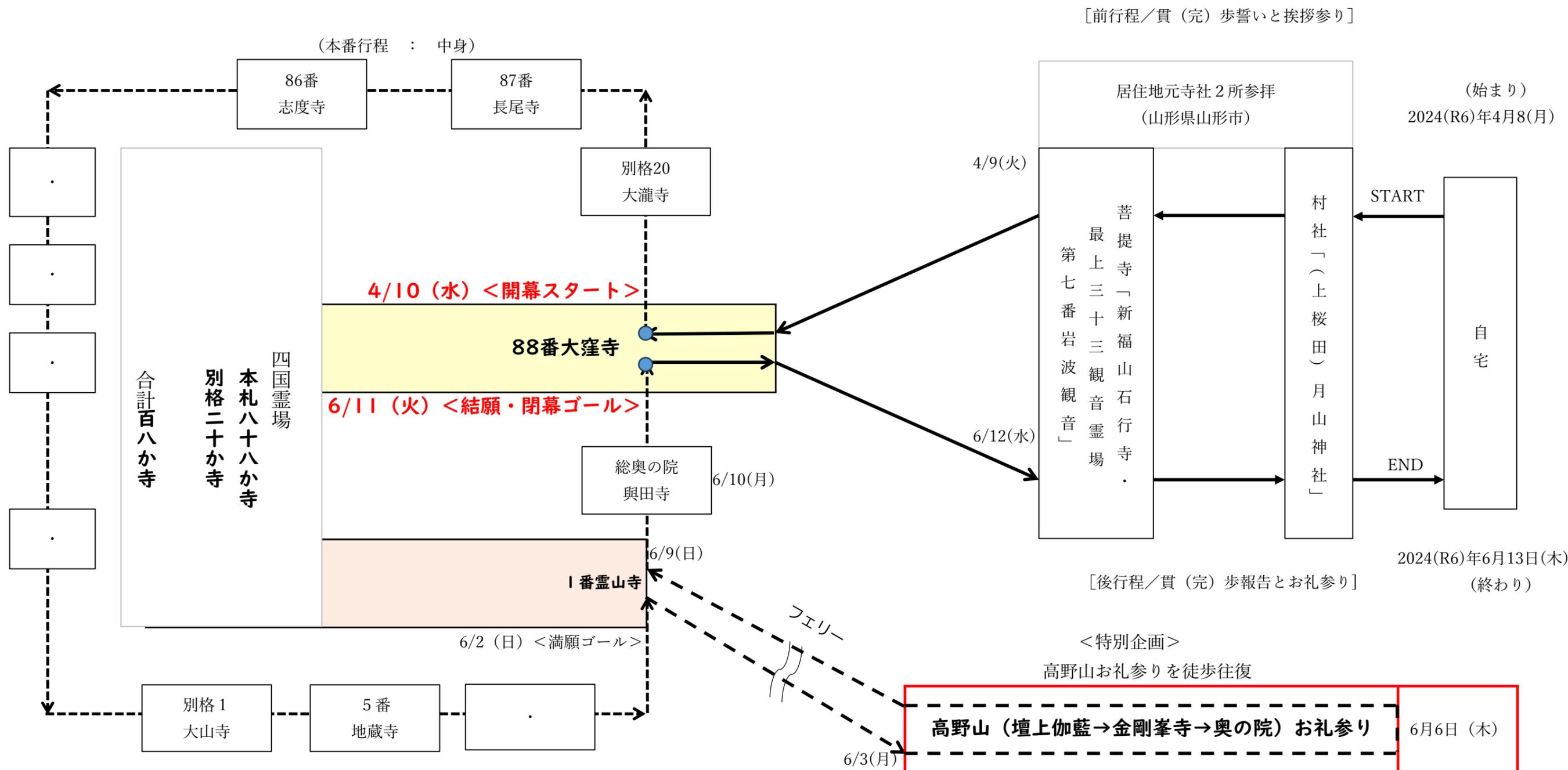
四国遍路については、数多くの紀行文や案内書や學術書が販売されており、浅薄な私の及ぶ処ではありません、よって、本書は私の体験を通したことに絞って、私の率直な目線で概要を記述しています。

.....

- (※1) 「108」は、四国霊場の本札八十八か寺 + 別格二十か寺の合計108（88+20）か寺の札所（お寺）を指します。
- (※2) 一般的な霊場寺院を歩いて参詣すること・人を「遍路」と漢字表記し、私に係る事柄を「へんろ」とひらがな表記します。

【 第 4 回 目 】 四国へんろ（108か寺霊場参拝順礼）、通し・逆打ち（左回り周回）88番スタート⇒別格20番⇒87番⇒86番
 ⇒・・・別格1番⇒5番・・・1番ゴール⇒（高野山往復）⇒1番に戻り⇒（與田寺）⇒88番最終ゴール[閉幕]

- ・本札88か寺を一つ一つ減らしながら、その間に別格20か寺を差し込んでこれも一つひとつ減らしながら、逆向き順番どおりに参拝した。
- ・88番をスタートして1番で満願、さらに高野山まで出向きお礼参りを果たし、往復1番に戻り、さらにはスタート基点88番までのへんろ道を、**全て一筆書き様相を以って徒歩で、1,591kmを貫歩した。**



【 第 4 回 目 】 四国へんろ {108か寺 (本札88か寺+別格20か寺) 霊場参拝、通し・逆打ち (左回り周回) } 行程表

「カシミール3dスーパー地形セット/開発者DAN杉本氏」ソフト (有料; 地図搭載、GPS軌跡&タイムの電子スタンプ機能) と「カシミール3D (フリーソフト)」により集計 > No. 1

累積 日数	行動月日		歩行経路 (道程) 通過札所名・始終点	実歩行 距離 km	歩行時間			平均時速 km/h	天候	備 考	宿泊先	
	月 日	曜 日			開始 時:分	終了 時:分	時間:分				所在地	名称
前行程 2024 (R6)	4月8日	(月)	・地元「上桜田月山神社」参拝 (滝本宮司と懇談) ・菩提寺「新福山石行寺・最上三十三観音第7番札所岩波観音」参拝 (佐藤住職と懇談)	---					快晴		山形市上桜田 山形市岩波	
	4月9日	(火)	自宅→88番近くの民宿八十窪まで新幹線その他鉄道等で移動	---					快晴		香川県さぬき市多和	民宿 八十窪
本番行程												
1日目	4月10日	(水)	88大窪寺→(こんぴら道)→別20大瀧寺→(宿)	28.0	7:45	18:00	10:15	2.7	快晴	88番より現地スタート	香川県高松市塩江町	新樺川観光ホテル
2日目	4月11日	(木)	→87長尾寺→86志度寺→(宿)	26.0	8:20	17:00	8:40	3.0	晴		香川県さぬき市志度	いせだ旅館
3日目	4月12日	(金)	→85八栗寺→84屋島寺→(宿)	19.0	7:50	15:00	7:10	2.7	晴	佐藤皮膚科医院受診	香川県高松市観光町	GH若葉屋
4日目	4月13日	(土)	前日の皮膚科受診を踏まえて安静滞留日	---					晴		香川県高松市栗林町	BHイーストパーク栗林
5日目	4月14日	(日)	→83一宮寺→別19香西寺→(宿)	19.5	8:00	16:15	8:15	2.4	晴		香川県高松市香西北町	GHイーハトーブ
6日目	4月15日	(月)	→82根香寺→(遍路道)→81白峰寺→(遍路道)→80国分寺→(宿)	18.0	8:05	16:00	7:55	2.3	晴		香川県高松市国分寺町	旅館 えびすや
7日目	4月16日	(火)	→79天皇寺→78郷照寺→(宿)	17.5	6:45	13:50	7:05	2.5	快晴	横関皮膚科クリニック受診	香川県丸亀市浜町	GHウエルかめ
8日目	4月17日	(水)	前日の皮膚科受診を踏まえて安静滞留日	---							香川県丸亀市浜町	GHウエルかめ
9日目	4月18日	(木)	→77道隆寺→76金倉寺→75善通寺→(宿)	14.0	9:10	15:00	5:50	2.4	快晴		香川県善通寺市上吉田町	善通寺グランドホテル
10日目	4月19日	(金)	→74甲山寺→73出釈迦寺→72曼荼羅寺→別18海岸寺→71弥谷寺→(宿)	19.5	8:00	17:00	9:00	2.2	曇		香川県三豊市三野町	GH Shippoya 七宝屋
11日目	4月20日	(土)	→別17神野寺→JR塩入駅;(琴平駅近くの宿へ)→(宿)	22.0	5:55	13:00	7:05	3.1	曇後小雨	途中から雨具着用	香川県仲多度郡琴平町	GH時しらず
12日目	4月21日	(日)	→JR塩入駅→70本山寺→69観音寺→68神恵院→(宿)	33.0	8:20	17:20	9:00	3.7	雨	朝から雨具着用	香川県観音寺市観音寺町	藤川旅館
13日目	4月22日	(月)	→67大興寺→別16萩原寺→(宿)	22.0	7:55	15:10	7:15	3.0	曇後雨	途中から雨具着用	香川県観音寺市栗井町	民宿 青空屋
14日目	4月23日	(火)	→(四国のみち/中蓮寺峰/若狭峰/猪の鼻峠)→別15箸蔵寺→(宿)	29.0	6:40	15:35	8:55	3.3	雨	朝から雨具着用	徳島県三好市池田町	丸福旅館
15日目	4月24日	(水)	→66雲辺寺→(曼陀峠越え)→別14椿堂→(宿)	28.0	6:35	15:05	8:30	3.3	曇後雨	途中から雨具着用	愛媛県四国中央市川滝町	GH毛利荘
16日目	4月25日	(木)	→(堀切峠越え)→別13仙龍寺→(三角寺奥の院道)→65三角寺→(宿)	30.5	6:25	17:05	10:40	2.9	快晴		愛媛県四国中央市土居町	蔦廼家
17日目	4月26日	(金)	→別12延命寺→64前神寺→(宿)	30.0	7:35	16:50	9:15	3.2	快晴		愛媛県西条市洲之内	湯之谷温泉
18日目	4月27日	(土)	→63吉祥寺→62宝寿寺→61香園寺→(伊予遍路道)→60横峯寺→(宿)	27.0	7:35	16:10	8:35	3.1	雨	朝から雨具着用	愛媛県西条市小松町	小町温泉しこくや
19日目	4月28日	(日)	→別11生木地藏→別10興隆寺→59国分寺→58仙遊寺→(宿)	32.0	7:10	16:20	9:10	3.5	晴		愛媛県今治市玉川町	仙遊寺宿坊
20日目	4月29日	(月)	→57永福寺→56泰山寺→55南光坊→54延命寺→(宿)	27.0	8:05	16:30	8:25	3.2	雨	朝から雨具着用	愛媛県今治市菊間町	マリーナシーガル
21日目	4月30日	(火)	→53円明寺→52太山寺→(宿)	31.0	6:10	16:25	10:15	3.0	曇		愛媛県松山市山越町	ビジネス民宿松山
22日目	5月1日	(水)	→51石手寺→50繁多寺→49浄土寺→48西林寺→別09文殊院→ 47八坂寺→46浄瑠璃寺→(三坂峠越え)→(宿)	28.5	7:15	16:55	9:40	2.9	雨	朝から雨具着用	愛媛県久万高原町	桃李庵
23日目	5月2日	(木)	→45岩屋寺→44大寶寺→(宿)	28.0	6:45	15:20	8:35	3.3	快晴		愛媛県久万高原町	ガーデンタイム
24日目	5月3日	(金)	→(農祖峠)→(宿)	28.0	8:05	16:00	7:55	3.5	晴		愛媛県喜多郡内子町	いかだや
25日目	5月4日	(土)	→別08十夜ヶ橋→(宿)	26.0	8:00	16:00	8:00	3.3	快晴		愛媛県大洲市常磐町	ときわ旅館
26日目	5月5日	(日)	→(沼田・瀬田ルート)→別07出石寺→(地藏ルート)→(宿)	26.5	6:50	15:20	8:30	3.1	晴		愛媛県大洲市常磐町	ときわ旅館
27日目	5月6日	(月)	→(鳥坂峠越え)→43明石寺→(宿)→	26.5	7:00	14:45	7:45	3.4	雨	朝から雨具着用	愛媛県西予市宇和町	GHおめぐり庵
28日目	5月7日	(火)	→(法華津峠)→(齒長峠)→42仏木寺→41龍光寺→別06龍光院→(宿)	27.0	7:35	15:50	8:15	3.3	晴		愛媛県宇和島市丸之内	宇和島リージェントホテル
29日目	5月8日	(水)	→(松尾隧道越え)→(四国のみち)→(宿)	29.0	7:00	15:50	8:50	3.3	快晴		愛媛県南宇和郡愛南町	かめや旅館
30日目	5月9日	(木)	→40観自在寺→(松尾峠)→(宿)	30.5	7:05	15:20	8:15	3.7	快晴		高知県宿毛市駅東町	まなべ旅館
31日目	5月10日	(金)	→39延光寺→(宿)	23.5	6:45	14:20	7:35	3.1	快晴		高知県幡多郡三原村	民宿 くろうさぎ
32日目	5月11日	(土)	→(今ノ山下越え)→(宿)	31.0	7:15	15:15	8:00	3.9	晴		高知県土佐清水市緑ヶ丘	民宿 みかんの家
33日目	5月12日	(日)	→38金剛福寺→(足摺岬)→(宿)	32.5	7:10	15:35	8:25	3.9	曇・晴		高知県土佐清水市久百々	民宿 くもも

累積 日数	行動月日		歩行経路(道程) 通過札所名・始終点	実歩行 距離 km	歩行時間			平均時速 km/h	天候	備考	宿泊先	
	月 日	曜 日			開始 時:分	終了 時:分	時間:分				所在地	名称
34日目	5月13日	(月)	→(宿)	33.5	6:55	15:30	8:35	3.9	雨後晴	朝から雨具着用	高知県幡多郡黒潮町	海坊主
35日目	5月14日	(火)	→37岩本寺→(宿)	30.0	6:55	14:35	7:40	3.9	快晴		高知県高岡郡四万十町	まるか旅館
36日目	5月15日	(水)	→(七子峠)→(焼坂峠)→(宿)	29.0	7:45	15:45	8:00	3.6	快晴		高知県須崎市安和	民宿 あわの里
37日目	5月16日	(木)	→別05大善寺→(横浪黒潮ライン)→36青龍寺→(宿)	32.5	6:45	16:25	9:40	3.4	快晴		高知県土佐市宇佐町	GHりり庵
38日目	5月17日	(金)	→(土佐遍路道青龍寺道)→35清瀧寺→34種間寺→33雪蹊寺→(宿)	28.0	6:40	15:05	8:25	3.3	快晴		高知県高知市長浜	民宿 高知屋
39日目	5月18日	(土)	→(県営フェリー)→32禅師峰寺→31竹林寺→(高知中央郵便局)→(宿)	21.0	7:35	15:35	8:00	2.6	快晴		高知県高知市桜井町	GH EN HOSTEL BAR
40日目	5月19日	(日)	→30善楽寺→29国分寺→28大日寺→(宿)	24.5	7:20	14:55	7:35	3.2	雨	朝から雨具着用	高知県香南市野市町	高知黒潮ホテル
41日目	5月20日	(月)	→(宿)	26.5	8:05	15:55	7:50	3.4	快晴		高知県安芸市伊尾木	伊尾木ステーションゲストハウス
42日目	5月21日	(火)	→27神峯寺→(宿)	22.5	7:30	15:50	8:20	2.7	快晴		高知県安芸郡奈半利町	ゲストハウスよろずや
43日目	5月22日	(水)	→26金剛頂寺(西寺)→25津照寺→(宿)	24.0	7:40	15:30	7:50	3.1	晴		高知県室戸市室津	ホテル富士
44日目	5月23日	(木)	→24最御崎寺(東寺)→(室戸岬)→(御厨人窟・神明窟)→(宿)	23.0	7:45	15:35	7:50	2.9	雨後晴	後半は雨具を脱いだ	高知県室戸市佐喜浜町	民宿 徳増
45日目	5月24日	(金)	→(宿)	34.5	5:50	15:20	9:30	3.6	快晴		徳島県海部郡海陽町	生本旅館
46日目	5月25日	(土)	→別04鯖大師本坊→23薬王寺→(宿)	29.0	7:50	16:25	8:35	3.4	快晴		徳島県海部郡美波町	ビジネスホテル・ケアンズ
47日目	5月26日	(日)	→22平等寺→(大根峠越え)→(宿)	28.0	7:55	15:30	7:35	3.7	曇・雨	途中から雨具着用	徳島県阿南市加茂町	民宿 ほたるの宿
48日目	5月27日	(月)	→21太龍寺→(遍路道)→20鶴林寺→(遍路道)→別03慈眼寺→(遍路道)→(宿)	28.5	6:25	16:00	9:35	3.0	雨	朝から雨具着用	徳島県勝浦郡勝浦町	ふれあいの里さかもと
49日目	5月28日	(火)	→19立江寺→18恩山寺→(宿)	22.5	7:35	14:30	6:55	3.3	強雨	朝から雨具着用(豪雨)	徳島県小松島市田野町	民宿 ちば
50日目	5月29日	(水)	→(阿波おどり会館で実演鑑賞)→17井戸寺→16観音寺→(宿)	21.0	7:45	15:05	7:20	2.9	快晴		徳島県徳島市国府町	鱗楼
51日目	5月30日	(木)	→15国分寺→14常楽寺→13大日寺→別02童学寺→(宿)	23.5	7:45	15:20	7:35	3.1	快晴		徳島県名西郡神山町	植村旅館
52日目	5月31日	(金)	→(杖杉庵)→12焼山寺→(柳水庵→長戸庵)[遍路転がし]→11藤井寺→(宿)	23.5	7:00	15:55	8:55	2.6	強雨	朝から雨具着用(豪雨)	徳島県吉野川市鴨島町	旅館 吉野
53日目	6月1日	(土)	→10切幡寺→09法輪寺→08熊谷寺→07十楽寺→06安楽寺→(宿)	25.0	7:40	15:40	8:00	3.1	快晴		徳島県板野郡上板町	民宿 寿食堂
54日目	6月2日	(日)	→別01大山寺→(四国のみち)→05地藏寺→04大日寺→03金泉寺 →02極楽寺→01霊山寺→	24.0	6:20	16:05	9:45	2.5	晴	別格1番で結願の証受領 1番で満願証受領	徳島県鳴門市大麻町	旅館 大鳥居苑
55日目	6月3日	(月)	→1番霊山寺→徳島港→(フェリー)→和歌山港→(宿)	20.7	---	---	---	---	晴後曇	高野山向けに移動	和歌山県和歌山市	ビジネスイン南海
56日目	6月4日	(火)	→和歌山市内観光(西国2番紀三井寺、紀州東照宮、 和歌山県立博物館他)→(宿)	---							”	”
57日目	6月5日	(水)	→(西国3番粉河寺)→(宿)	26.0	7:40	15:00	7:20	3.5	快晴		和歌山県紀の川市粉河	丸浅旅館
58日目	6月6日	(木)	→(麻生津峠越え)→高野山(壇上伽藍→金剛峯寺→奥之院)→(宿)	34.0	5:20	16:35	11:15	3.0	快晴	誕生日75歳	和歌山県伊都郡高野町	宿坊 成福院
59日目	6月7日	(金)	→(町石道)→慈尊院→(宿)	37.5	5:50	15:55	10:05	3.7	快晴		和歌山県紀の川市粉河	丸浅旅館
60日目	6月8日	(土)	→(大和街道)→(宿)	27.0	7:25	15:10	7:45	3.5	快晴		和歌山県和歌山市	ビジネスイン南海
61日目	6月9日	(日)	→和歌山港→(フェリー)→徳島港→1番霊山寺→(宿)	22.2					強雨	四国向けに移動	徳島県鳴門市大麻町	観梅苑
62日目	6月10日	(月)	→(卯辰越)→(大坂越)→與田寺→(宿)	30.5	6:30	15:45	9:15	3.3	曇後晴		香川県東かがわ市	HOTEL AZ 香川東かがわ店
63日目	6月11日	(火)	→88大窪寺→(女体山越え)→さぬき市へんろ資料館(おへんろサロン)→(宿)	28.5	5:40	14:30	8:50	3.2	快晴	88番で結願証受領 おへんろサロンで任命書受領	香川県さぬき市長尾西	結願の宿 ながお路
60日間	実質60(63-3)日間			---	---	---	---	---				
後行程 2024 (R6)	6月12日	(水)	長尾駅から高松、岡山へ、新幹線で帰宅	---					快晴		山形市上桜田	
	6月13日	(木)	・地元「上桜田月山神社」参拝(滝本宮司と懇談) ・菩提寺「新福山石行寺・最上三十三観音第7番札所岩波観音」参拝	---					快晴		山形市岩波	

遍路道実歩行合計(沿面距離) **1,591.0** km

1日平均 **26.5** km

1日当りの最長(6/7) **37.5** km

1日当りの最短(4/18) **14.0** km

四国内のみ **1,424.0** km

平均時速

8:25	3.2
時間・分	km/h

(6/6) **11:15** 時間・分

(4/18) **5:50** 時間・分

(註1) 現地には、4月10日(水)～6月11日(火)までの63日間滞在したが、その中で3日間はへんろ行軍せずに滞留したことから実質のへんろ行脚は60日間となった。
(註2) 與田寺は四国八十八ヶ所総奥の院と称されていることから、あえて足を延ばして参拝した。

(註3) 四国88か寺霊場のへんろ道の標準的な距離は1200km～1400kmとされている。別格霊場を含めた標準距離は示されていないが、2015(H27)年第1回目を実施した108か寺へんろ道歩行距離は1,446kmであった、今回の四国内のみは1,424kmとなったが、減少分は1回目で行った県庁・同所在地市役所等の立ち寄りを省いたためである。
(註4) 距離・時間には、必然的な参拝、境内見学、休憩、昼食、コンビニ立寄り等を含む。

第4回目「四国へんろ」のこと（概要）

今回の行動の概要・日程は前記P3～P6のとおり。現地滞在は4月10日（水）～6月11日（火）までの63日間、その中に3日間の滞留日があったことから実質の現地対応正味期間は60日間となりました。遍路道ルート沿い実歩行距離合計（沿面距離）は約1,591km、1日平均の歩行距離は約26.5km、歩行時間は8時間25分、歩行時速は3.2kmほどとなりました、大きく外れた対応分はカットしています。

※；1回とは、1度のへんろ旅で対象の全札所（108か寺、または88か寺）を打った（巡礼した）ことをいう。したがって、4回とは、別年毎に4周回したものであり、全札所を打つ1巡分を4回に分けた、あるいは、1巡するのに4年掛かったということではない。

第I章 出発前の思いと計画性

1. この度の四国へんろに至った思い

後半人生を振り返って見る。2009(平成21)年6月に私は41年長奉職した会社（民間企業）を60歳で定年退職し、翌2010(平成22)年から2019(令和元)年までの丁度10年間、好きな歩き旅、歴史街道・四国へんろのトレイル三昧を思う存分楽しんで来た。2020(令和2)年1月15日(水)に新型コロナウイルス感染症例が公的に発表され、いわゆる巣籠り状態に入り、3年後の2022(令和4)年に落ち着いたことから7月以降は山形県西川町本道寺から月山に至る参詣古道「高清水通り」の調査、翌年2023(令和5)年は隣接する「清川道」の調査活動に没頭して来た。そして、2024(R6)年1月28日(日)にそれら両古道に係る総括報告を行ったことを一区切りとした。2024(R6)年は年が明けて数え75歳、6月を以って満75歳、4年毎に巡って来たうるう年である、区切りが良い、一つの大きな節目と感じた。終わった、終わりとしたはずの四国へんろが忽然と浮かんだ、全行程を歩き続ける四国へんろ（スルーハイイク巡拝）をまた敢行したいと直感した。

2. ある心配

不吉な予感と葛藤もあった。東南海地震のことである。東南海地震の発生確率は、政府地震調査委員会の平成19年1月の試算では、30年以内の発生確率は60～70%とされている。30年後ということではない、今この時点でも発生確率は60～70%であるのだ。4月上旬に本屋に立ち寄った時、「ムーmu」という雑誌2024年4月号が目に入った。『「霊界の宇宙 ゼロ・ポイント・フィールド」の謎』という特集が気になった。霊界という言葉からは胡散臭いと思われがちだが、量子学の最新研究に基づく純粋な科学的知見なのだ、そこには東南海地震の直接的予言ではないが、2025年7月5日に、フィリピン海域で東日本大震災の3倍もの巨大津波を伴う地震発生予言のことを記載している、「四国は直撃を受けたら大変なことになる、よし、今の内だ！」と思った。

図-1は後付け情報ではあるが、38日目5月17日（金）、香川県丸亀市浜町GHウエルかめ泊の夜中に揺れ（震度3）を感じた。

朝日新聞デジタル > 記事

愛媛県愛南町・高知県宿毛市で震度6弱 伊方原発「異常なし」の報告

2024年4月17日 23時27分 (2024年4月17日 23時58分更新)



✉ f X B! ...
list 2



気象庁発表
各地の主な震度

17日午後11時14分ごろ、豊後水道を震源とする地震があり、最大震度6弱を観測した。気象庁によると、震源の深さは約50キロ、地震の規模を示すマグニチュードは6.4と推定される。この地震による津波の心配はないという。この地震で緊急地震速報を発表している。

図-1

3. 大綱計画

四国遍路の対象寺院と言え、一般的に、普通は（一社）四国八十八ヶ所霊場会（事務所は総本山善通寺境内）が総括する八十八か寺である。八十八か寺以外にも空海こと弘法大師にまつわる信仰や伝説に基づいて開かれた寺院は沢山あり、本札所に準ずる格付けのものとして四国別格二十霊場会（非営利任意団体）の二十か寺が名を馳せている。

以下、横書きにおいての数字を算用数字で表記する。私は前者を本札 88 か寺、後者を別格 20 か寺と略称する。88+20=108 となるが、数字の語呂合わせで、煩惱とされる 108 種類の数字と合い、108 か寺を巡拝すれば煩惱が払われるという信仰が根付いていることを踏まえ、私も挑戦することにした。もちろん、そんな迷信を信じている私ではない、遊び心で応じて見るかという軽いタッチである。年に一度のうらうら年に逆打ちすると、他の年よりもご利益が 3 倍になると云われる。そのようになったのは「右衛門三郎（えもんさぶろう）」伝説によると云われるがここでは割愛する。

4 回目のへんろにおいては、88 番大窪寺、1 番霊山寺、高野山の 3 箇所を基点としつつ、どのように回れば大香ブランド老魂サブタイトル（下記）に適うものとして納得するのか、様々な組合せがある中で思案した。

1 番霊山寺で完終して帰宅するのか。

1 番霊山寺から 88 番大窪寺に戻って完終し帰宅するのか。

1 番霊山寺から高野山まで行き、その後に帰宅するのか。

1 番霊山寺から高野山まで往復し、さらに、88 番まで歩いて閉じる、その後に帰宅するのか。

迷ったあげく、結局は 4 番目を決意した。

4. 「大香ブランド老魂サブタイトル」の設定

歩行へんろ中の自身に喝を入れるための大義名分である。

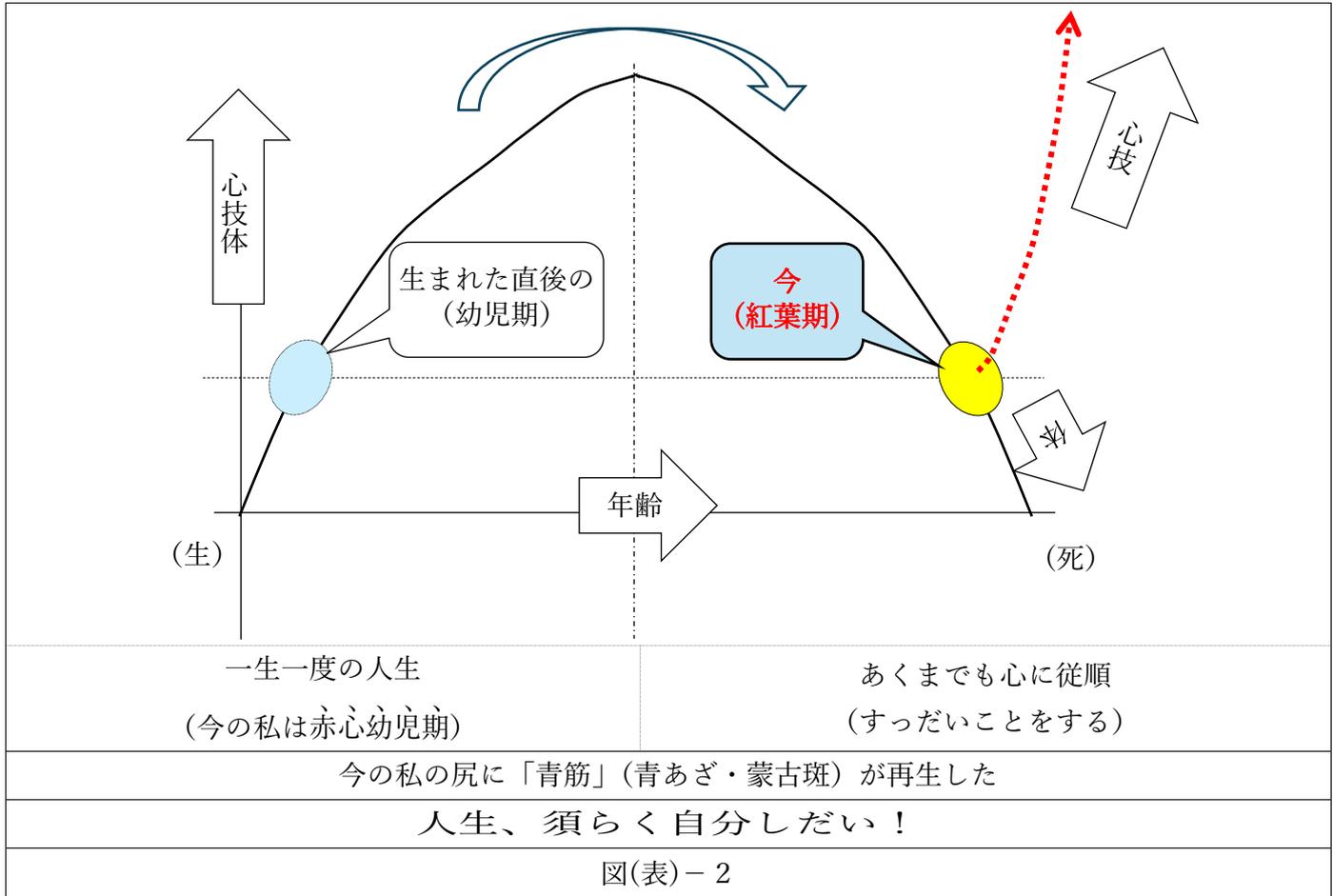
その 1 ; 「終息前夜祭 四国へんろ逆順大作戦」とした。

その 2 ; その理由・事情背景は次のとおり。

今の私の心技体は図(表)－2 のとおりの幼児期同等の位置、すなわち終息寸前にあり、この節目で逆打ち順番通りに歩きへんろ（巡拝・順礼・巡遊）を “思う存分すったいたげする” で楽しんで来ることにする。終息とは文字どおり命の終焉『死』を意味する。前夜祭りとは残余の命短しを自覚する中で、その直前に “すったいごどを全部する” の心・言・行を意図している。加齢による身体的能力の衰えはやむを得ない、しかし、心技、すなわち心の持ち様はむしろ廣大無辺の自由を得て、現状打破の活力を自覚出来るに至っている。

5. 2024 年は 75 歳、干支は「甲辰（きのえたつ）」

昭和 24 年(1949)生まれの私は、令和 6 年(2024)は 75 歳(誕生日は 6 月 6 日)になる。後期高齢者の仲間入りである。陰陽五行説によると「甲」は草木の成長を表す意味があり、植物が成長するようにどんどん勢いを増して増えていくという意味を内包する、また、辰年のたつ（竜、龍）は十二支の中で 唯一空想上の生き物で、隆盛の象徴であることから、さらなる努力をすることで、成功にスピード感を持って近付ける年となる。2023 年卯年は準備の年であったが、2024 年はその準備した結果が実を結ぶ年とされる。年甲斐もなくこれらの意味をも片隅に置きつつ四国へんろを敢行したいと念じた。



6. 相変わらずの逡巡

今回は、正月の初夢見たいなものだが、1月の7日過ぎになったら、急にへんろに出かけたいという願いが湧き、日増しに思いが強くなった。図

1 回目	2015(H27)年	4月1日(水)	友引
2 回目	2017(H29)年	4月4日(火)	仏滅
3 回目	2018(H30)年	4月3日(火)	先勝

図(表) - 3 の 1

(表) - 3・1、同図 2 の暦を眺めながら、現地スタートから数日は雨降りは避けたい、私の誕生日は6月6日であることからへんろ中のどこかでその日を迎えたいとも思った。いざ、具体的な日程を決める段になると決断し兼ねる、行くべきか止めるべきか、行くにしても意味はあるのか？ 踏み出すに逡巡する、へんろ敢行の決意のタイミングを計りかねて、悶々として時間が過ぎて行く、悶々とは言ったが、他方で計画が楽しくもある。普段は六曜を一切気にしないが、へんろの擬死再生の点も浮かび、現地スタートを切りのいい4月10日と決めた。今回の最終決断は、千利休の名句がある、「人の行く裏に道あり花の山 いずれの道も散らぬ間に行け」に押され、出発の3日前であった。前日の4月9日自宅を発つ必要があることから、JR新幹線切符予約は「えきねっと」から結局は3日前の4月6日(土)であった。特に四国へんろの2回目以降といえども、その都度リセットされた感があって、先々の不安は毎回同じである。1年前のことが、数年前のことをすっかり忘れてしまうのであった。

8 先勝(壬寅)	9 先負(癸卯)	10 仏滅(甲辰)	11 大安(乙巳)	12 赤口(丙午)	13 先勝(丁未)	14 友引(戊申)
旧暦 2/30	旧暦 3/1	旧暦 3/2	旧暦 3/3	旧暦 3/4	旧暦 3/5	旧暦 3/6
月齢 28.7	月齢 0.4 新月	月齢 1.4	月齢 2.4	月齢 3.4	月齢 4.4	月齢 5.4

図(表) - 3 の 2

7. 参拝寺院数と順逆の打ち方^(註)／図(表)－4

過去3回を振り返ると、108と88の数字の組合せでは、前者は1回で後者は2回、順逆の組合せでは前者は2回、後者は1回である。だとすれば、それぞれ2回に合わせればいいとなり、1回ずつ足りない「108と逆」を取り入れることによる調和観を意識した。

(註) お遍路で参拝する寺院のことを「札所」と呼び、札所を巡ることを「打つ」という。各寺院で読経し朱印を貰うことを含めて「納経」という。

		1回目	2回目	3回目	4回目(今回)
		2015(H27) /66歳	2017(H29) /68歳	2018(H30) /69歳	2024(R6) /75歳
参拝対象寺院数	108	順打ち			
	88		逆打ち		
	88			順打ち	
	108				逆打ち
図(表)－4					

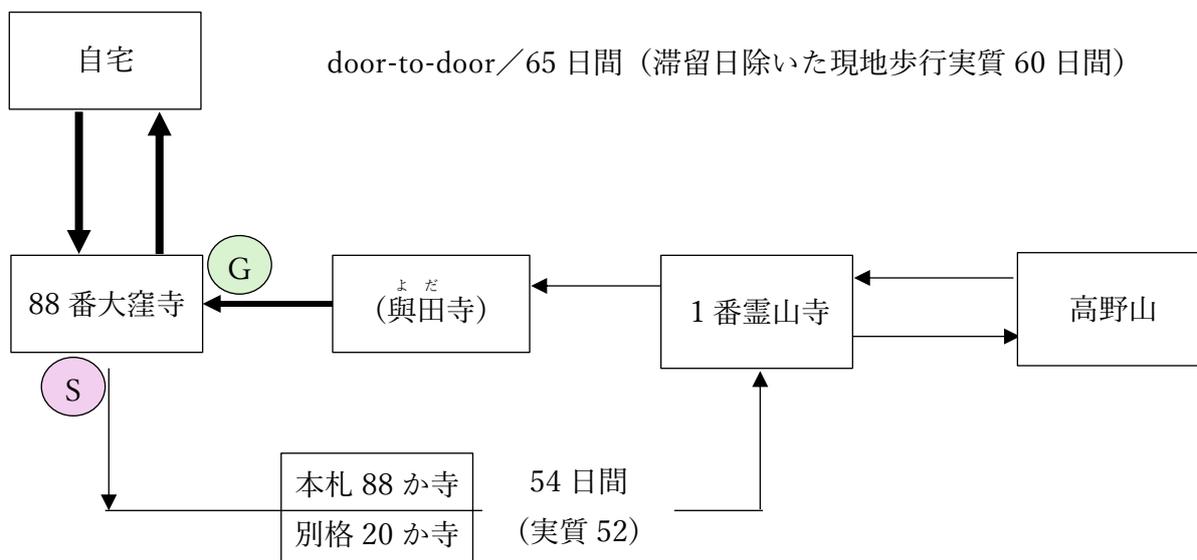
もう一つの意味があって、過去3回の実施年齢を加算すると、 $66+68+69=203$ であることからして、108を加えると311となり、“そうだ、あの東北大震災勃発は3.11だ、その供養も重ねよう！”となったのである。

第II章 実施結果

1. 打ち方の骨格

その計画を踏まえ、結果して図(表)－5のとおりに打った。88番大窪寺をスタートし、本札88か寺に別格20か寺を**順番通りに差し込みながら逆回り**で巡拝し、1番靈山寺に達すれば四国へんろの第一義的な所期目的は達成する。しかし、ここで終了せず、靈山寺から弘法大師こと空海が入定している**高野山まで一歩き**——徳島港から和歌山港の間だけはフェリー利用——、三大聖地の壇上伽藍・金剛峯寺・奥之院に参り、四国へんろの報告と感謝の礼を尽くし、**引き続き歩いて1番靈山寺に戻り**、さらに、四国靈場の総本山とされる與田寺^{よだじ}に立ち寄り、88番大窪寺に戻って終了した。自画自賛だが、円環を成した綺麗な調和構図が見えて来た。

4頁の足跡GPSトラックログは、全ての札所を繋ぐ全区間をこの足で歩いた証左である。へんろ道を繋ぐに当たってはバス・鉄道・レンタカー・タクシー・お接待等による公共交通機関や動力は一切利用していない。(宿に着いた後、所要のためにタクシー利用は1日2回あった。)



図(表) - 5

2. 靴擦れと皮膚科受診と靴交換

一番つらい思いをしたのは靴擦れであった。3日目4月12日(金)当日の宿GH若葉屋に到着後に、タクシー利用でモンベル高松店と佐藤皮膚科医院受診に赴いた。

(1) 症状 / 図 - 6

2日目の4月11日(木)、87番長尾寺に向けて歩いているさ中、足に靴擦れによる豆が出来て痛み出したのを自覚した。写真は少し治りつつある状態である。靴内の足指で土(道)を噛む、把持するという繰り返す動作の中で、特に、舗装道路上を長時間歩くと、高温多湿の内部で固い靴と皮膚の間で摩擦を起こすようになり、火ぶくれ火傷状態となる。宿のいせだ旅館で豆つゆ(体液)を絞ったものの絞り切れず、こうなると過去の経験から悪化を辿り簡単には治癒しないことを思い出した。



図 - 6

(2) 皮膚科受診

過去のような長期間の痛みを経験したくないという思いが強くなり、皮膚科に行くことにした。3日目4月12日(金)、高松市内ゲストハウス(GH)若葉屋に到着後、高松市内佐藤皮膚科・泌尿器科医院に行き、メスを入れて豆の体液を絞って貰った、傷薬軟膏だけ貰った。しかし、直ぐに治るものではなく、大事を取って翌4日目4月13日(土)は滞留日とし、高松市夢みらい図書館で休息し、高松市内ビジネスホテル イーストパーク栗林に停泊した。

7日目 4月16日(火)、香川県丸亀市内宿のGHウエルかめに到着後、直ぐ近くの横関皮膚科クリニックに歩いて行った、化膿寸前で腐れ掛っていると診断された、非保険対象であるが、自然に傷ついた皮膚に溶け込んでいく貼りもの(キズパワーパッド)を紹介された。1枚1000円、結果的にはこれが良かった。翌日は同宿で休息しつつ滞留日とした。

もちろん、1日や2日休んだからといって痛みが消えるものではない、気休めみたいなものではあったが、痛みが抜けるまで1週間くらい要した。

(3) 靴購入と交換

a. 高松市内モンベル

3日目 4月12日(金)、香川県高松市内のモンベルでトレッキング用を購入(図-7②)し交換した。当初履いて来たモンベル登山用靴(図-7①)は自宅に送り返した。

10日目 4月19日(金)、別格18海岸寺から71弥谷寺までのへんろ道は、谷沿いの鋭角的な河原石が露出した道であり、モンベルの靴では足裏に石の凹凸を直接感じて力が入らなかった。

12日目 4月21日(日)、観音寺市内藤川旅館に到着後、ワークマンに行き、底厚の靴を購入(③)し、高松で購入したモンベル靴は自宅に送った。

34日目 5月13日(月)、海坊主の宿において、靴の接合部が剥がれている(③の1~2)ことに気付いた。

35日目 5月14日(火)、ホームセンターから接着剤を購入し、とりあえず塞いだ。また、まるか旅館からガムテープを貰い補強(③の3)した。

37日目 5月16日(木)、GHりり庵で、送り返した最初の靴(7①)の郵送を妻に依頼した。

39日目 5月18日(土)、その靴を高知中央郵便局で受け取り交換した。



図-7

靴擦れの原因を硬く重い登山靴のせいにしていたが、靴擦れの傷がほぼ治っていたこの頃になったら、フィット感のあるとても良い靴になった。スタート時に登山靴を履いた理由は、同じ型の別物を月山登山時に使用して問題なかったこと、ただ、最初に履いた靴は1度だけ履いたものの新品同様ではあった。すると、振り返って、最初の靴連れは何だったのか?“そうか、天が俺の意志を試したのではないか? お大師様が取えて私のやる気を試したのではないか?”と思った。なお、過去3回においては、1回目は今回よりも重い登山靴であったが、靴擦れは軽く済んだ、しかし、2・3回目は大変苦しめられた。

ある男の説によれば、1日の歩行時間25km超、背負うザックの重さ8kg超になると靴擦れが起きやすいという。

(4) 靴擦れで悩んだ仲間

決して諦めない強靱な精神の持ち主達に出会った。

一人目；3日目4月12日(金)、85番八栗寺登りで会った男、足まめ治療で3日間、同じ宿に滞留したという。

二人目；3日目4月12日(金)、84番屋島寺の下りで女性から多量のキズバンを貰った、後々助かった。この人も、序盤、靴擦れで大変苦しいつらい思いをした、今は良くなったので不要になったからあなたにやると言われた。

三人目；6日目4月15日(月)、82番根香寺と81番白峰寺の間で白装束の男(昭和23年生まれ)と会った。高知市内で同じ宿に10日間滞留した。2日間は普通料金で、8日間は使っていない離れ宅に入り無料で貰ったという。

四人目；高知県室戸岬周回の区間、大きな病院が無いことから、小さな3個所の診療所を渡り歩きながら治療を受けたという。

(5) 靴に係るその他のこと

・49日目5月28日(火)、19番立江寺を打った直後の昼食時に会った男、靴底が剥がれてしまった、妻から靴を送って貰い、先ほど立江郵便局から受領したということ。

・ある男が「靴擦れの痛みを例えるならば、靴を履き歩き出した初めの5・6歩は生け花用鉢針千本の上を歩くようなもの」と称された、私の体験でもまさにそのとおりの表現がぴったり当てはまる。

・舗装道路を歩く時のトレッキング用と山道を歩く時の登山用と2足を持つ人と3人に出会った。重いと言うリスクはあるもの靴擦れ予防対策としては得策であろう。

3. 背中中の皮膚炎症

背中の一部にひりひりする痛みを覚えるようになった。19日目4月28日(日)仙遊寺宿坊の部屋で、見て貰ったら図-8のとおり3個所にただれが生じていた。過去にも経験しており、この原因は、ポカリスエット等のソフトドリンクを多用したために消化し切れなかった塩分が噴き出て、その塩が皮膚との間で擦れるためである。治りつつある時痒くて痒くて大変困るものとなる。



図-8

4. 私の読経作法・読経所作、奉納するお経

四国八十八ヶ所霊場会では、お遍路4つの基礎知識(お遍路の心得、参拝手順、読経方法、遍路用品)をホームページに示して標準作法^(註)を推奨しているが私は次のように対応した。

(註) 合掌礼拝、開経偈、懺悔文、三帰依文、十善戒、発菩提心真言、三昧耶会真言、般若心経、ご本尊真言、光明真言、ご宝号、回向文、合掌礼拝、御詠歌またはご和讃

札所(寺院)境内には、必ず本堂(寺の中心となるお堂で如来や菩薩など、その寺のご本尊を安置)と大師堂(弘法大師をお祀り)がある、本堂と大師堂は必要最低限のセットである。

そこで私が読経した言葉は図(表)－9のとおりである。今回の私はローソク・線香は点さない。境内に入ると、本堂と大師堂を確認した後に、まずは「南無大師遍照金剛」と3回暗唱し、同図(表)の読経に入る。私をお大師様に結ぶという心持ちがあれば良いのだとしている。

図(表)－9		
崇める対象	本堂前で読経	大師堂前で読経
仏(仏教)	般若心経	----
	光明真言 家族5人の戒名 お大師御宝号(3回)	
神(神道)	祓言葉	
キリスト(キリスト教)	御(み)言葉	
<p>・般若心経(省略)</p> <p>・光明の真言 おん あぼきやー べいーろしやのう まかぼたら まに はんどま じんばら はらばりたや うん</p> <p>・亡き父母戒名 拓原力斗篤農居士(亡父 力) 芳春富耀大姉(亡母 トミヨ) 誠覚日剛信士(亡弟 剛) 初陽成満信士(亡義父 初男) 花顔妙雪信女(亡義母 花子)</p> <p>・お大師御宝号 南無大師遍照金剛</p>		
<p>・祓詞 はらへことは 掛けまくも 畏き伊邪那岐の大神 筑紫の日向の 橘の小戸の 阿波岐原に 禊祓へ給ひし時に 成りませる祓へ戸の大神等 諸諸の禍事・罪・穢有らむをば 祓へ給ひ清め給へと白す事を 聞こし食せと 恐み恐みも白す</p> <p>・御言葉 神よ 私は おごらず 高ぶらず 偉大な事 身に余る事を 求めようとしない 心静かに 私は憩う 母の手に 安らぐ幼子のように 心静かに 私は憩う 神の前にある 幼子のように</p>		

般若心経等は合掌で、^{ほらへことば} 祓 詞 を唱える所作は前後に神道方式“二礼二拍手一礼”（柏手を打ち）、キリスト教御言葉を唱える所作は前後にカトリック方式“父（額）と子（胸）と聖霊（左肩）の御名によって（右肩）アーメン（指を組んで合掌）”と、顔と胸の処で十字を切る作法を以って対応した。

寺院でなぜ祓言葉やキリスト教の御言葉なのだ？ と疑問を持たれると思うが、これは**私のシンクレティズム**——異なる複数の宗教的要素を習合して捉える考え方、諸教混淆方式を適切とする考え方——から来ている。元々私は神・仏・キは偶像、架空の世界であり「敬神崇仏＝偶像崇拜」であるとしているが、言い方を変えると、神・仏・キに境界は無い、区別が無いと見ていることから、神・仏・キは一つであると認識しているからである。貞明皇后(大正天皇の皇后)は、次の和歌を詠んでおり、若い頃から知っていた。「**キリストも釈迦も孔子も敬ひて 拝む神の道ぞたふとき(尊き)**」 **これ以上至純な信仰心はないだろう。これこそがわが日本民族信仰心の神髄・精華**なのである。だから、職業は有りとしても、神職が仏・キの心に、僧職が神・キの心に、聖職が神・仏の心に寄せないとすれば、その職に値しないのだ。

それらが私^{わたくし}流の神仏に対する向き合いである。いずれにしても、読経・敬礼^{きょうらい}は形式的な挨拶と捉えている。「^{さいしき}彩色性多重人格」の私が故に何の違和感もなく当たり前の心・言・行である。それにしても、標準作法から大きく外れた作法であるが、私の素地だからやむを得ない。なお、大師堂前で般若心経を読誦しない理由は、単に時間短縮のためである。他人に迷惑を掛けた訳ではなく、私の独自のやり方の一面であり、四国へんろにおいては2回目以降はこのとおり。他人の読経スタイルを眺めると様々である。もちろん、きちんと推奨手順を踏まえる人はいるが、「南無大師遍照金剛」だけを唱え簡単に終える人も一定数はいた。なお、経を読誦するものの納経しない、つまり、御朱印を貰わない人は、複数回の歩きへんろにおいては2割くらいはいるのではないかと思われる。また、「南無阿弥陀仏」の六字名号を唱えて終わる人もいた。ここで思い出しが、二つのお寺でこのようなことを話題に出した時、一つ目は“私らは3世代家族だが、私は真言宗、妻は天台宗、息子夫婦は浄土真宗”を信仰していると言っていた。二つ目は、私達夫婦は真言宗、しかし、息子は神職である“と言っていた。いずれからも、何のわだかまりもないとのこと、思想信条は異なるのは当たり前としても、私の所作も格別不思議なものではないということが分かった。

5. 私のへんろ姿

図-10のとおり。マスクは交通量が多い時間帯、トンネル歩行時に速やかに着用するために胸元に装備、スマホはGPS電波を捉えること・速やかに取り出せること・濡れないようにすることを考慮し、ビニールケースに入れて胸元に装備、IC（ボイス）レコーダーは思い浮かんだことを速やかに録音するために胸元に装備した。本来杖袋は金剛杖用カバーであるものだが、ダブルストックに取り付けた、その意味は、亡くなった父母・弟を、妻の亡父母をあの手から呼び出して、一緒に順礼している姿を具象化したものである。トンネルを通過する場合もあることから反射テープを前後に巻き付けた。同図5は遊び心のお守りとして、大日如来と陰陽魚眼図のグッツである。ザックを含めた重量は必要最小限に約6.0kg、水を入れると7.0kgほどを背負った。これで現地に入ってから1kgほどは自宅に送り返した。

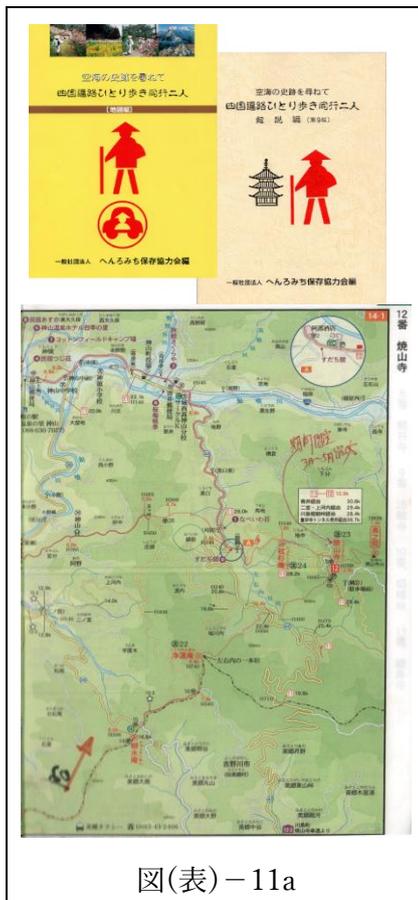
 <p>雨具着用 (一時期止んだことからポン チョは肩にかけている)</p> <p>図-10a</p>	 <p>菅傘は背中に</p> <p>図-10b</p>	 <p>普通 (菅傘は被ったり脱いだり)</p> <p>図-10c</p>
 <p>図-10d</p>		 <p>図-10e</p>

6. 地図のこと

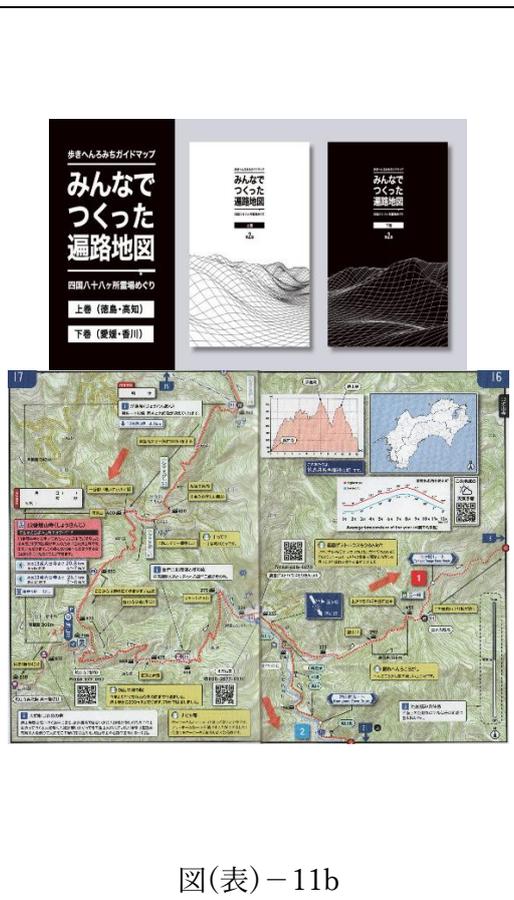
その1；歩いて進路を決めるための必需品、四国遍路用の地図が販売されている。主に次の3点である。紙ベースのものでは(社)へんろみち保存協力会発行のもの／図(表)-11a、(株)スーパーマーケット「みんなのへんろ事務局」のもの／同bがあり、前者は発行が早いことからよく知れ渡っている。ただし、前者のものは紙の上が北とは限らない、アベコベで非常に使い難い。なお、同社制作の英語版は紙の上が北である。後者は社会通念に合致し紙の上は北に統一されているが、縮尺は記述されているものの道の途中・要所要所に距離が印字されていない、よって非常に使い難い。両者に一長一短がある。他に四国遍路日本遺産協議会のものはpdfである。無料のスマホ用アプリ「Henro Helper」／同cは、英語対応(地図は日本語記述とレイヤー)だが、リアルタイムのGPS追跡と方位情報を使用して、希望のルートを確認出来る。ルートは、交通量の多い道(赤)、静かな道(黒)、簡単な道(緑)、中程度の道(青)、難しい道(紫)を示すように色分けされている。いわば難易度相当を区分けし、利用者の選択肢を広げている。他に札所(寺院)、名所、トイレ、休憩所、コンビニ、宿泊施設などのウェイポイントも見られ、とても、ネットが繋がるエリアにおいてはとても有用であろう。

その2；私はスマートフォン(iPhone15 PRO)に「カシミール3dスーパー地形セット／開発者DAN杉本氏」ソフト(有料)をインストールし、紙の地図は持参しなかった。図-12aは別格18番海岸寺周辺のトラックログ(足跡)だが、赤色実線は計画ルート、青色実線は実際の踏査に伴い自動記録されたトラックログである。いつも計画ルートを表示しているので、例えば、コンビニに、あるいは宿に入るために計画ルートを外れたとしても、容易に復帰出来る。だから、現地における様々な案内誘導表示は順打ち用であるものの、私にとっては何の問題も無いのだ。さらに、トラック上のある点を長押しすると同bの

ように表示され、全長 1273.7km の中で、その指定（長押し）した点は基点から 144.2km と分かる。1 日の歩行距離を検討するにしても、宿決めを検討するにしても、とても重宝であり、使い勝手の良いアプリである。したがって、重い荷物となる紙の地図は持たずともまったく問題がなかったのである。ただし、スマホ故障の時は言うまでもなくお手上げである。



図(表) - 11a



図(表) - 11b



図(表) - 11c

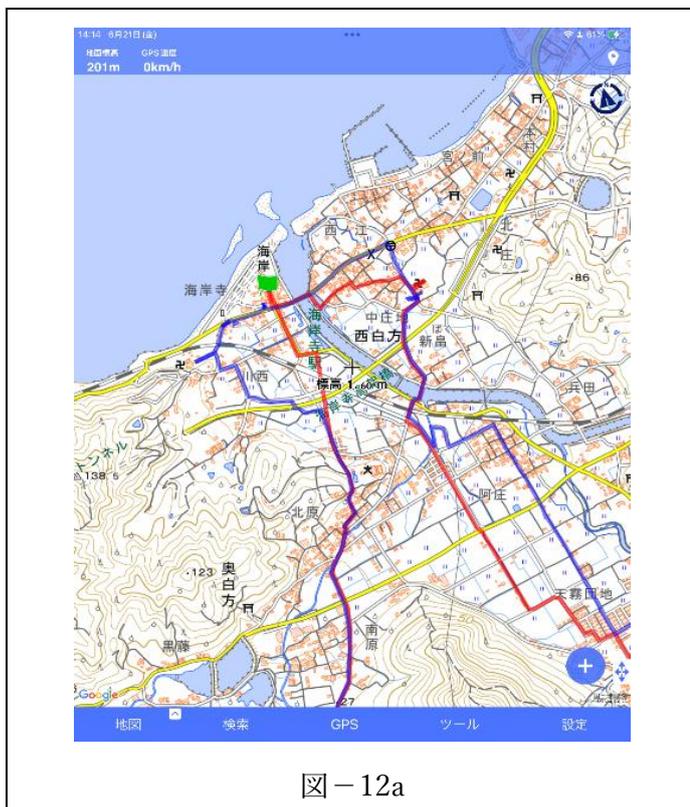


図 - 12a

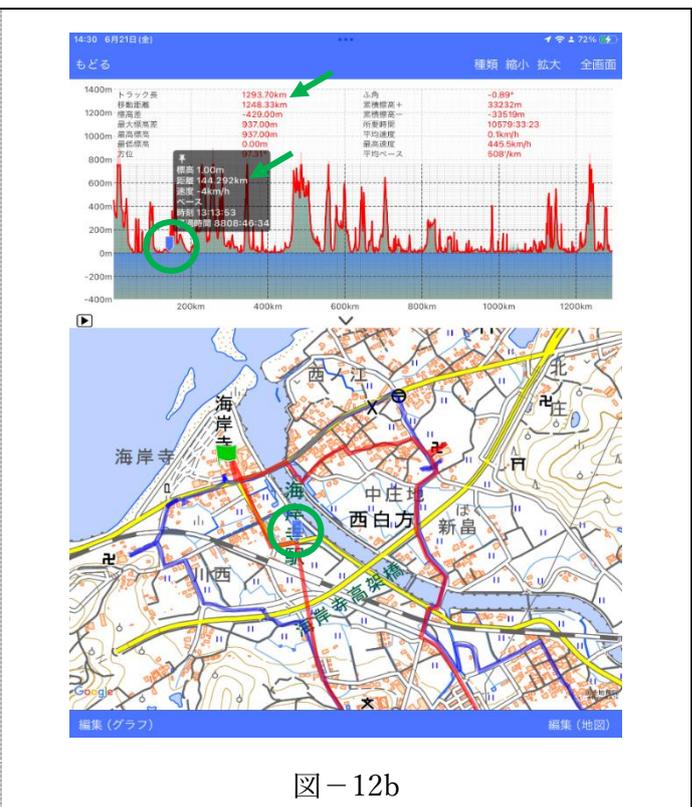


図 - 12b

7. 宿決めのこと

へんろ宿（へんろ人を対象）／民宿・旅館、一般的なビジネスホテル、ゲストハウス（素泊まり／若い人を主に、年配も空き家を活用）などが要所にあり、宿泊先の確保はさほど困難ではない。私は3日間くらい先まで予約し、それを押せ押せでローリングしていく。宿決めは柔軟性を確保したく長くは取らなかった。人によっては全部予約して来る者もいた。問題は4月末から5月に掛けての大型連休である。宿を確保出来ないという悩みがある。連休を避ければ良いではないかとなる、四国八十八か寺だけでも、標準的には45日前後を要する中においては、3月上旬にスタートする必要となるが、四国といえども3月はまだ寒さが残っており、出来るだけ荷物を軽量にするために、歩き遍路のほとんどは4月上旬から開始する。すると、ゴールデンウィークに掛かることになる。神奈川県の方は宿が取れず自宅まで一度帰り、復帰していた、あるいは、愛媛県松江市内に泊りたいが、周辺はみな満杯で鉄道で高松まで行って泊ったという人もいた。同様の遍路人は他にも相当数いた。

図(表)-13は宿決め検討の例示である。前記スマホのスーパー地形アプリを片手にあれやこれや思案・検討した残骸である。宿においてこの作業を行うが、希望する場所にスムーズに取れるかどうか、どんな宿なのか、ネットに載っているというものの局部であることから綺麗な部屋なのか、電話で話すというもののご主人・女将さんの人柄はどうなのか。悲喜こもごもの時間帯である。

今回は少し不安視したのは66番雲辺寺と65番三角寺との間に宿は二つしかないという現状においてどのように攻略するのかである。民宿岡田とGH毛利荘はあるが、前者は人気がありシーズン中は早期の予約者でいつも満杯、後者は事前登録者のネット予約の2部屋しかないことにある。今回は幸いに希望とえりの15日目の4月24日（水）後者を確保出来たので助かった。また、ゴールデンウィーク中は計画通りの場所にゲット出来たことは幸いであった。

なお、宿においては、IC（ボイス）レコーダーの記録内容を再生しつつ当日の出来事をメモに起こして、スマホに記録する作業を行った。

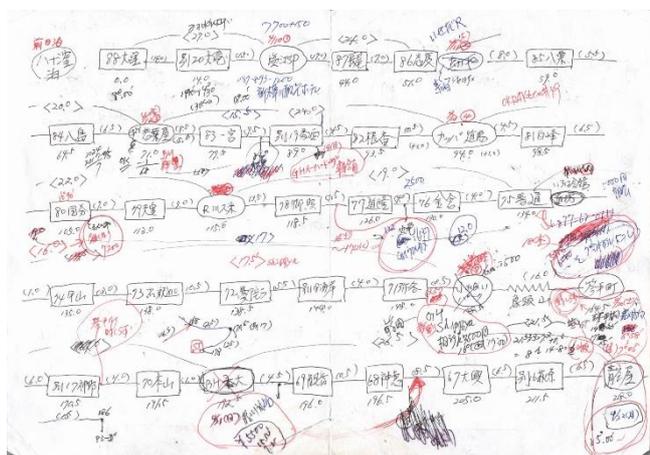


図-13a

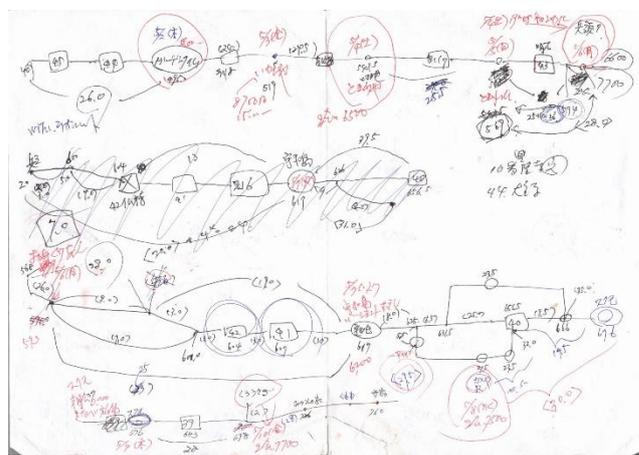


図-13b

8. 想定外のこと

28日目5月7日(火)、前泊宿GHおめぐり庵を出て間もなくのこと。7時28分頃に兵庫県淡路島の魚里さん(図-14a)と7年ぶりにバッタリ遭遇したのである。実は2018(平成30)年の3回目四国へんろの時に、抜きつ抜かれつで、同宿も何回かあり、同bのとおり顔見知りとなっていたのである。同図右側の人は鹿児島県南さつま市の法門さんである。100m(1分)違えば遭うことはなかったはず、魚里さんは順打ち、私は逆打ちだからお互いが近寄りつつ対面する形で遭ったのである。お互いビックリ・ビック

りで、こういうことが世の中では起こるものである。私はこれを機にこのへんろを成し遂げなければならないという意欲が強まったことを覚えている。

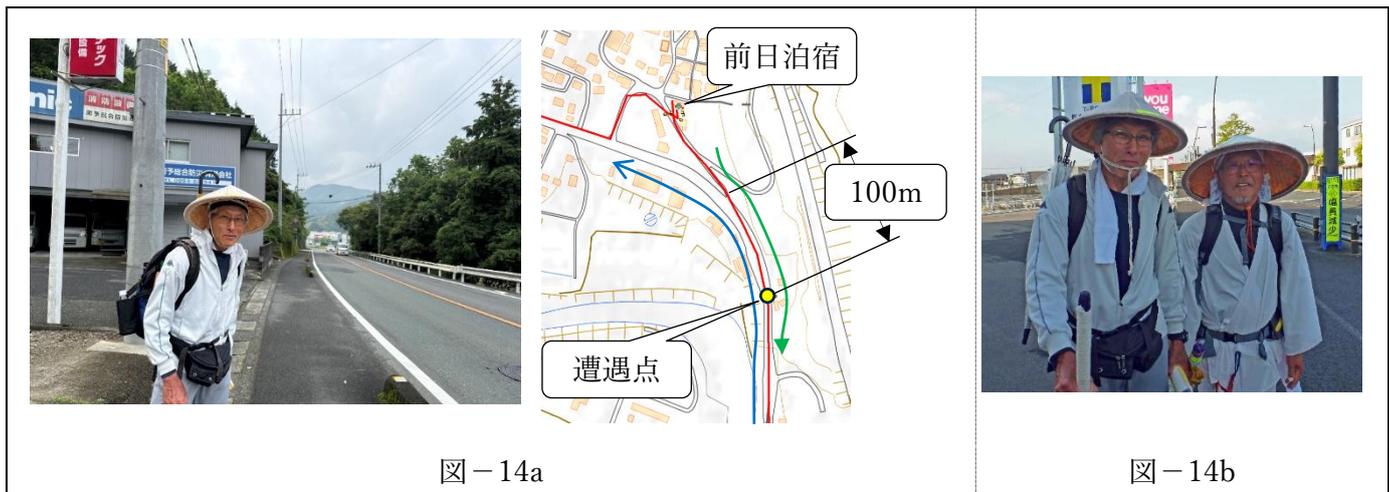


図-14a

図-14b

9. 荷物を預けることの功罪

宿を拠点にそこに荷物を置いて打つ人が多いようだ。図-15のとおりのよい例がある。15aにおいては27番神峯寺を打つ場合、麓にある民宿とうの浜に荷物を預けて貴重品と納経帳のみを持って往復する人が多いはず。15bにおいては、45番岩屋寺を打つ場合、打ち戻しのルートであり、手前の宿の囲み内には数件の民宿があることからこれを利用し、ここに荷物をおいて、往復する人が相当多いはずである。

私の場合はどうか。過去3回のへんろにおいては1度も（1回も）荷物を宿に預けたことはない。今回の私はと言うと、図-16のとおりに、26日目5月5日（日）、連泊のときわ旅館を基点（ベース）に、別格7番出石寺を打つために往復する（した）が1日がかかりである。当然荷物を置きたくなる、しかし、私は全て背負った。なぜなのか？ 非常災害・大災害を想定したリスクマネジメントである。例えば私の身に異常がなくても、宿が火災などで被災する可能性はゼロではない。そうなったらお手上げである。

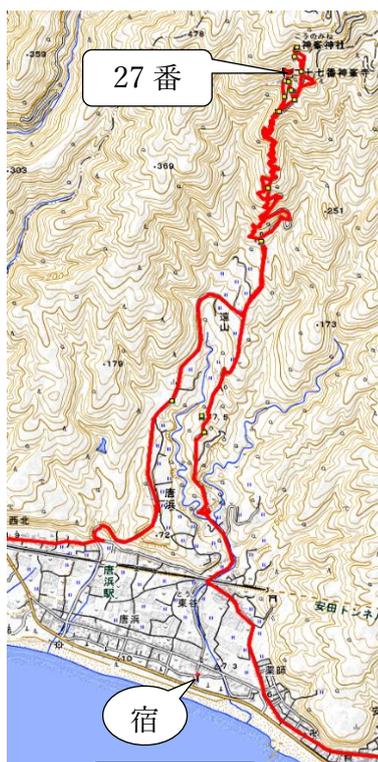


図-15a

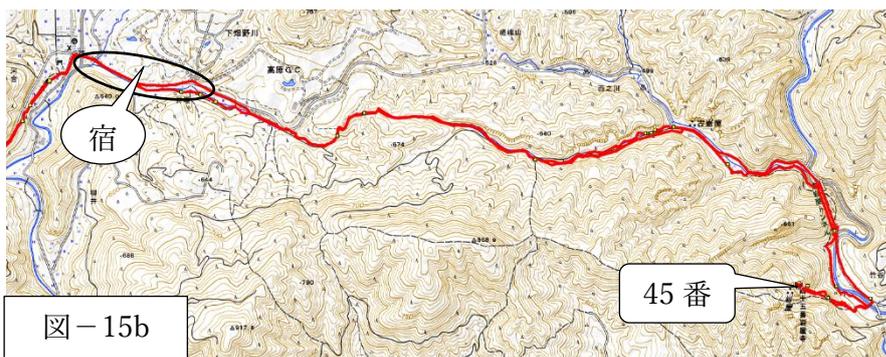


図-15b

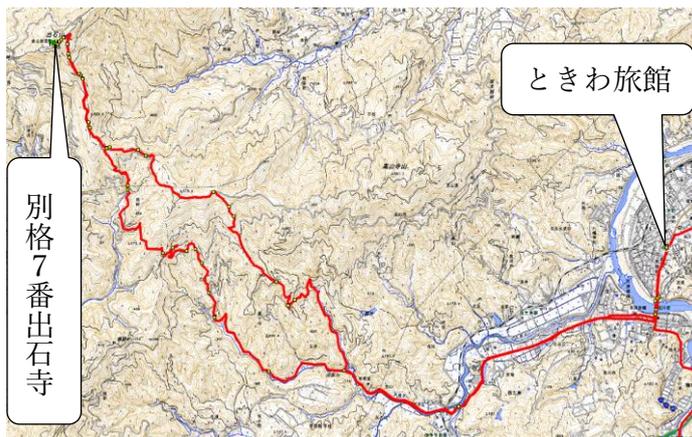


図-16

だから、私は荷物を絶対に預けない。ある宿で、このことを話したらある人から「それは考え過ぎだ」と一蹴・一笑された、果たしてどちらが適切で現実的な予見可能性を持った対応だろうか。

10. 打ち方

4頁上段に「本札 88 か寺を一つ一つ減らしながら、その間に別格 20 か寺を差し込んでこれも一つひとつ減らしながら、逆向き順番通りに参拝した。」(私の打ち方ルール) と記述したが、例えば、44番と45番の位置関係は図-17aのとおりだが、気分的には手前の44番を打ってから奥の45番に行きたくなくなるが、私は、自身か決めた私の打ち方ルールに従い、順序としては46番(紙面外)→45番→44番→43番(紙面外)とした。あるいは、多くの人がやるのは、同bのイメージであるが、一つの宿を拠点に今日の午前は札所Yを、午後はAを打ち、翌日はMを打つというように札所順序に捉われない対応である。私は同cのようにあくまでも順序に拘った。こうなると、私の方が型にはまった融通の利かない姿勢ではないかと映るが、きれいに仕上げたいというTPOに処した方針であるのだ。過去3回もこの精神を貫いて実践して来た。

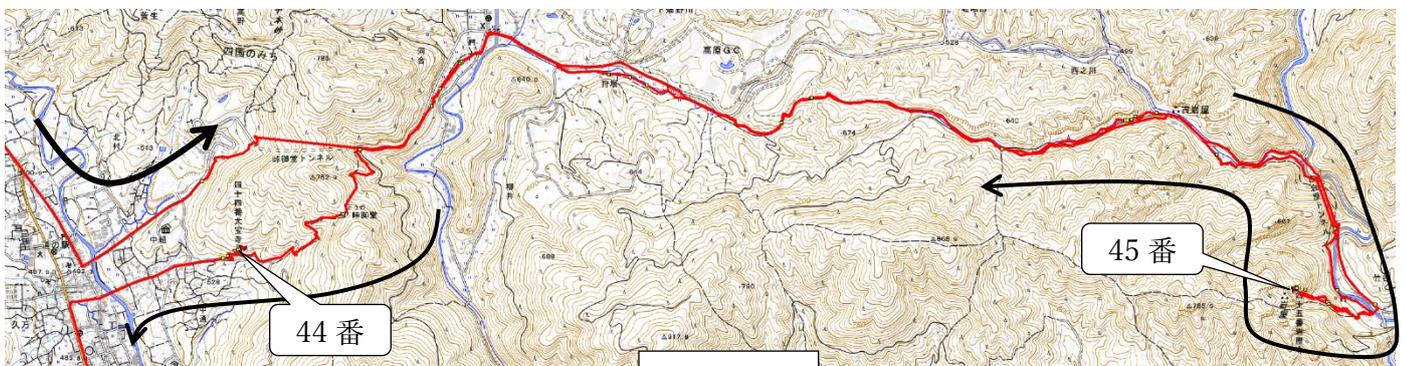


図-17a

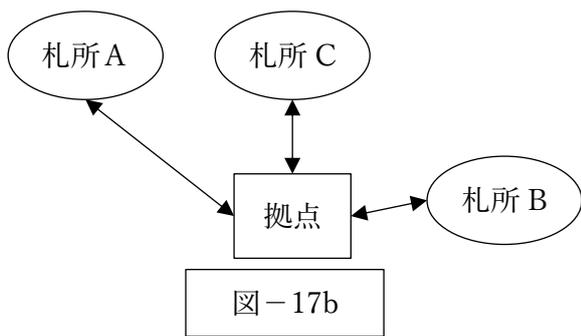


図-17b

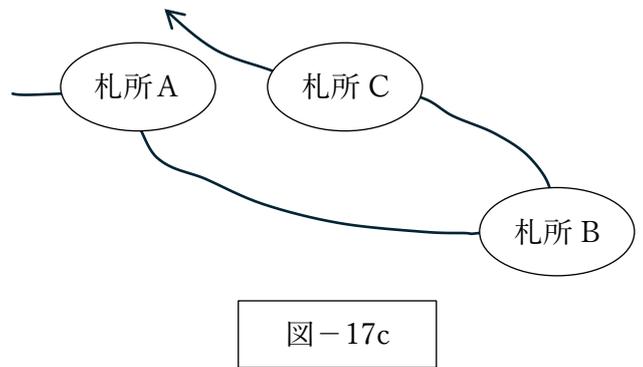


図-17c

こうなると、前の荷物を預ける云々や打ち方においては、何か融通の利かない四角四面と見える一面もあろうが、全体は柔軟に、極所の機微は繊細にして、全体をきれいな調和あるものに仕上げたいという思いから硬軟織り交ぜるという無意識の行動である。

11. 私の心遣い

多くの人達から支えられてのへんろ旅ではあるが、とりわけ、食事提供を賜わるお宿には感謝しきれない。朝、玄関を出る時は、相手の顔を直視し、誠意を込めて明瞭な言葉で「女将さん(ご主人さん)家族のご多幸と商売繁盛を祈っています。そして、女将さん!いつまでも若々しく!」として分かれて来た。すると、みんなにっこり笑顔で私に激励をくれた。これが私の些細な御礼の言葉である。

12. 納経（朱印入手）／図(表)－18～20

出発前に地元の社寺―――地元村社（上桜田）月山神社と菩提寺新福山石行寺に参拝・納経し、滝本光彦宮司と佐藤志亮住職と懇談した。また、到着後同様の対応を取った。

納経帳（朱印帳）および納経軸は過去のへんろにおいて入手していることから、今回は本札と別格共に印取り白衣に朱印を貰うこととした。また、着衣用の自由白衣を持参した。

図(表)-18a

印取白衣 本札 88 か寺 (前)



84	83	68	67	45	46	61	62
86	85	70	69	47	48	63	64
88	87	72	71	49	50	65	66
		74	73	51	52		
		76	75	53	54		
		78	77	55	56		
		80	79	57	58		
		82	81	59	60		

図(表) - 18b

印取白衣 本札 88 か寺 (後)

背面中央部に高野山参拝の証拠として、3 個所(壇上伽藍 2 種類、金剛峯寺、奥之院)に納経して来た。



40	39	24	23	以下	1	2	17	18
42	41	26	25	高野山	3	4	19	20
44	43	28	27	奥の院	5	6	21	22
		30	29		7	8		
		32	31	金剛峯寺	9	10		
		34	33		11	12		
		36	35	壇上伽藍 1	13	14		
		38	37	壇上伽藍 2	15	16		

図(表) - 19a

印取白衣 別格 20 か寺 (前)



- | | |
|---|---|
| 5 | 1 |
| 6 | 2 |
| 7 | 3 |
| 8 | 4 |

図(表) - 19b

印取白衣 別格 20 か寺 (後)



- | | |
|----|----|
| 15 | 9 |
| 16 | 10 |
| 17 | 11 |
| 18 | 12 |
| 19 | 13 |
| 20 | 14 |

次の自由白衣は、神仏混交を意識した。所々黒ずんだシミは、着衣が汗で濡れていることに気付かずに羽織ったためである。

図(表)-20a
自由白衣(表)



初陽成満信士
(亡義父)
花顔妙雪信女
(亡義母)

(上桜田)
月山神社

高野山奥の院
與田寺

拓源力斗
篤農居士
(亡父)

(亡父)
拓源力斗
篤農居士

新福山石行寺
(大沼家の菩提寺)
大麻比古神社
紀州東照宮
西国三番 粉河寺
西国二番 三井寺

芳春富耀大姉
(亡母)
誠覚日剛信士
(亡弟)

図(表) - 20b
自由白衣 (裏)



88 番大窪寺 ⇒
2024(R6)/4/10(水)
[スタート]

2024(R6)/6/11(火) ⇐
[結願]

四国別格二十

大師遍照金剛

南無観世音菩薩

大師遍照金剛

四国本札八十八

⇒ 1 番霊山寺
2024(R6)/6/2(日)
[満願]
↓
↓
2024(R6)/6/9(日)
[リスタート]

13. 様々・ユニークなへんろ人と宿

(1) 私が出会った最高齢者は、43日目5月22日(水)、26番金剛頂寺下りのへんろ道、昭和16年生まれの83歳(公共交通機関混在のハイブリッドタイプ)であった。また、山形県米沢市内八幡原工業団内に新工場立ち上げ時の責任者として2年間滞在したという。

(2) 75歳前後で20kg近くの荷物を背負う野宿派5人と会話をした。ある男は腰が痛い、肩が痛いと言いつつもよたよた歩いていた。覚悟を持ったへんろであろうからみんな良い顔をしていた。

(3) 寺の若き坊主——僧職(見習い)4人と会話をした、3人は夏用の薄く黒い袈裟を着用、他の1人は普通服、4人とも野宿派、いずれも住職からアドバイスがあったという。図-21は31日目5月10日(金)に三原村内で会った人である。

(4) 宿には様々な職業を経験して来たユニークな人達が集まる。図-22aは33日目5月12日(日)の民宿くももにおいて、同bの38日目5月17日(金)33番雪蹊寺門前の民宿高知屋においては、夕食時、向い合うようにセットしてくれた、このようにセットすればしがらみ・腐れ縁——プライベート時間帯においても、自分が帰属する組織



図-21



図-22a



図-22b

内の役職を引き摺る心・言・行、日常のコミュニティにおける同調圧力——の無い間柄においては、心の交流が大層盛り上がる。6日目4月15日(月)の旅館えびすやにおいても同様の配慮があった。他にも何か所かあった。このような場には私は積極的に参加する。人生万般の率直な意見交換が弾む。ところが、ある宿では、明らかな歩きへんろは3人もいたが、大きなテーブルに別々に離してお膳を置いたことからお通夜同然であった。コロナ禍の引き摺りなのか、向かい合うことを嫌う人もいることからの配慮だったのか、2箇所あった。酒盛りには好き嫌いがあるろう、盛り上がるというものの大騒ぎをするに至らないのは当然の気遣いである。宿は商売・経営である、向い合いは酒がはかどる、このようなセット酒盛りを忌避する人は予め宿に言って、部屋の端に位置すれば良いのだ。へんろ宿は、全国各地から来た歩きへんろが集い、一期一会を満喫出来るへんろ居酒屋で良いのだ。

私は道すがらの時空を「^{こうらん}行雲流水 虹行場」と称した、雲が行くが如くに水が流れるが如くに行き交う人も景色も変わる中に、それを繋ぐように七色の虹が掛かって来る情景を感得した。私は宿の時空を『蓮花道場』と称した。四国遍路の舞台とて人間暮らしの場であり、へんろ人も生身の人間ではあるものの――蓮の育つ泥沼に重ねる――宿の中の皆は、泥沼から咲いた仏性の象徴なる蓮の花のようだと感得した。普通の旅行ではめったにこうはならない。

道すがらにおいても、宿においても、初対面に腐れ縁・しがらみ・利害関係は絶無、「気遣い、遠慮、妥協」は一切いらぬ、腹藏無く、単刀直入の丁々発止、虚心坦懐、何でも有りの心の交流が渦巻く、多士済々の面々と誠心誠意、肝胆相照らす仲間、我が抜けた少年少女の破顔微笑、尽心の妙が交錯する**一期一会のゴールデン時空**なのだ。なお、私は、宿において様々な情報交換をするが、道の細部の状況、宿の好き嫌い等へんろに直接的な事柄について出しゃばり的なアドバイスは一切やらない、関知しない、当事者が自分で感じ、自分で開拓すべきという考え方であるから。

(5) 雨で濡れた客の迎え入れ方様々。図-23aは33日目5月2日(日)の民宿くももの室内、同bは45日目5月24日(金)の生本いくもと旅館の室である。前者は部屋に紐を張り、沢山のハンガー、下には滴る水のためにビニールシートを敷いていた。後者は畳部屋の隣にフローリングのスペースを用意していた。25日目5月4日(土)と翌5月5日(日)連泊したときわ旅館においては、洗濯はお接待ということで、勧められた部屋干し(沢山のハンガーを用意)で乾かした。小さな遍路宿においては高価な乾燥機まで導入しなくとも、このような配慮で十分なおもてなしであろう。



図-23a



図-23b

ところが、濡れた人を受け入れる配慮・対処を成していない宿も何軒かあった。ある所で、外国人が濡れたままの衣類を掛ける所を探し回るように部屋中を物色する姿があった、あちこちに水滴が散っていた。濡れ衣類を掛ける所が無ければ、部屋内が汚れ損じるのは当然、宿側の自業自得である。これは客が悪いとは言わない。天候が雨降りであれば、へんろ人は雨具を着用し、濡れた体で来るというのは当然予測が付くからだ。

(6) 20日目4月29日(月)、54延命寺で野宿派、6回目の桜井さん、昭和21年生まれの79歳、元気澆刺、納経料金が4月1日から値上されたのを機に納経は止めたということ。前回は108か寺順打ちで82日間を要したという。

(7) 24日目5月3日(金)、図-24、農祖峠を下った所でイタリアの女性が、道が分からないと泣きそうになっていた。右の新しい林道に入って戻って来たという。山の中でインターネットは繋がらない。私と翻訳ア

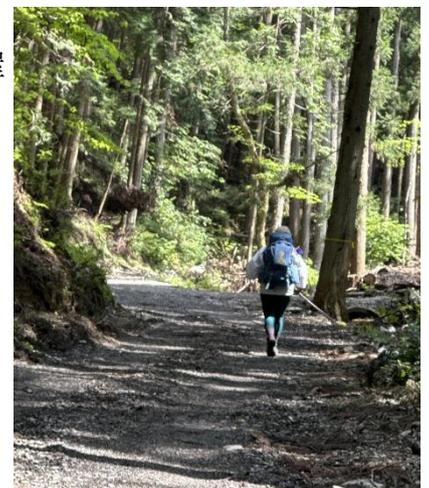


図-24

プリを使った会話が出来ない。5分後にかろうじて繋がったことから意思疎通が図られて、安全ルートを案内したので安堵して目的地に向かって行った。

(8) 29日目5月8日(水) 愛媛県宇和島市内津島大橋の上で、ジャズを聞きながらノリノリの男と会った、定年退職後4年間ひきこもりをしていたが、遍路を思い立ち今は弾けたという。修羅場を抜け切った爽快さ・満面の笑顔で会話してくれた、すごく印象に残った1人だ。

(9) 41日目5月20日(月)、伊尾木ステーションゲストハウスで、佐藤さん(男・山形市)と鮫島さん(女・福島県いわき市)と2時間近く懇談した。四国へんろ4回の中で山形在住の人とは初めて、山形出身者となれば、2018(H30)年の3回目の時に、東京在住の斎藤さんと知り合った。

(10) 47日目5月26日(日)、ほたるの宿、兵庫の人75歳。1番からスタートしたものの血圧が高くなり帰宅し、再開したものの腰痛で帰宅し、荷物が重いと感じた中で注意散漫から意図せずに雨具までを送ってしまい雨具調達だけのために1日滞留したという。

(11) 49日目5月28日(火)、民宿ちばで懇談した女性「本当にへんろが出来るのか不安だったことから、先達同行で3人が17番まで(3泊4日?) 打って見た、先達料金は19万円/人で高額と思った、ネットで探した。」という。歩きたく歩きたく、19万円を支払ってまでも歩きへんろの事前練習をしたということ。その姿勢をそれなりに評価する一方、誰にとっても、1回目は初回、未経験フィアットに突入することになる、先々の不安が押し寄せるものだが・・・。

(12) 私の他に客はいなかったことから、次のマスター(オーナー)とは差して2時間近く、政治・経済・宗教・社会問題、人生観などについて腹藏無く徹底討論した。私には必ず入れる話題がある、“将棋の藤井さんと野球の大谷さんと、あるいは、盲目のピアニスト辻井伸行とノーベル賞受賞者と、どちらが人間性において優れているのか?” 「人間性は優劣を比較しようが無い、物知り・知識旺盛な人はいるが、それは、1つの特技に過ぎない。重要なのは『1つの』という視点である。無数の中の1つである。特技といえども、人間性は優劣を競う対象にはならない。競技においては優劣を競うが一定のルール(束縛)の中での一部の能力を争うだけである。

a. 22日目5月1日(水)、桃李庵のマスター

b. 42日目5月21日(火)、ゲストハウスよろずやのマスター

(13) 前出桃李庵のマスターと、57日目6月5日(水)と、59日目6月7日(金)にお世話になった丸浅旅館女将さんからの話に共通点を感じた。お客を泊めるという宿泊事業の立ち上げのタイミング、顧客目線に立って時代の変化に合わせたリフォーム、縁・人間関係から生まれた集客、機を見た一気呵成の行動の大事さなどについて話を聞いた、私の体験からも言えるが、体力・気力のある内での機敏・果敢な行動が大事。よく挨拶代わりに「そのうち、やろう」という言葉を簡単に使うが、その真意は「あなたとはやらないよ」という裏返し(拒否)なのだ。それらの話に触発されて次のことが思い浮かんだ。進化論で有名なチャールズ・ダーウィンが著書『種の起源』の中に出て来るフレーズ、「最も強いものが生き残るのでは無い。最も変化に敏感なものが生き残る」という言葉。また、「最も強い者が生き残るのでは無く、最も賢い者が生き残るのでは無く、唯一、生き残る者は変化出来る者である」という言葉も伝えられている。

(14) 図-25aは41日目5月20日(月)、日本一周中に四国遍路。同図bは44日目5月23日(木)、スペインの女性、自転車は東京で中古を5.5万円で購入。同図cは51日目5月30日(木)、年中四国遍路(職業遍路?)という。



図-25a



図-25b



図-25c

(15) 「女性の1人歩きへんろ」が結構いるものだと感じた。今回は外国人を合せて10数人と会話をした。日本の治安の良さが安心させるのだろう。

(16) 外国人に聞くと殆んどは「日本文化に触れたい、その一環、その一心」という返事、へんろの前後に京都・奈良に行く人が大方という感じであった。

(17) 宿の逆キャンセルのこと、1週間前に予約した宿から、2日前に「宿の接客をしているおばあちゃんが体調を壊したので泊められなくなった。」と言われて、新しい宿探しに苦労した、という。客側からのキャンセルが普通だが、逆もあり、逆も真なりである。

(18) 歩きへんろにおいて、私が見た男女比率は8対2くらい、その内の女性の2割は旦那がいるという印象であった、旦那がいる(子供もいる)家族持ちの女性3人と会話をしたが、“1年間、へんろへんろとつぶやいていたらすんなり理解してくれた”という人がいた、どうしても歩きへんろをしたいという熱意が旦那に伝わったということであった。

14. 特別に考えさせられたこと・考えたこと

のことはたった一つのとても不愉快な出来事であった。

(1) ある信者による迷惑な折伏^{しやくぶく}行為

一人目；17日目4月26日(金)の10時過ぎ、新居浜市内で、ある男が屋敷から飛び出すように私の目の前に表れた。「私は創価学会員だ、歩いているのは何の目的か。宗教においては日蓮大聖人の教えが唯一正しいのだ。真言宗は間違っている、遍路に意味が無い。」とまずは一方的な弁があった。私は立ち止まって聞いてみた、相手主張の要約は「真言宗などの諸宗は邪教邪宗なのだ、それでは救われぬ、だから真言宗に係る遍路は即座に止めて、日蓮の教えに帰依すべし」ということであった。私は「日蓮宗も真言宗も所詮は仏陀の教えが根本、そこから派生した宗派は違って当たり前、教義・宗旨においてはどちらが絶対性を以って優位かということは断定出来ない。所詮は比較宗教の相対的問題、比較だから優劣があるかのように思い込むが、朝露の如くで絶対性(実体)は無いのだ。そもそも宗教は偶像崇拜だ。弘法大師(空海)の聖地高野山に行ったことはあるか？ 宗教・宗派、思想信条に関係無く、武将から大衆まで供養碑・墓碑を奉納している。それが膨大な数になっている。貴方は私の前に忽然と表れ、一方的に私の行動に対して否定的に言うのは甚だ失礼である。」と応じた。相手は「こりゃだめだ」と発声して引込んだ。

2人目；ほどなく、今度は創価学会を敵視する日蓮正宗を名乗るものが図-26のパンフを持って表れた、前記同様の言い振りであった。「1宗派に極度に偏った考え方、洗脳された思想は、宗教どころではない、人間をバカにしてしまう！」と冷たく言い放ち、前記同様の対応をした。

3人目；38日目5月17日（金）、土佐遍路道を下ってまもなく、36番青龍寺に向かっている途中、ある男が近寄り、初めは一般的な四国遍路に係る歴史の話であったが、次第に宗教、政治の世界に入った、法華経にこそ仏教の神髄があるという話が続いた。ピーンと来た！まもなくして「貴方は創価学会員だろう」と言うと、「そうだ」と白状した。相手は歩く私に寄り添って、会話しながら1時間も同行した。最初は直接的に真言宗うんぬんと言及することは無かったが、終盤になったら、真言宗に対する文句・批判が入って来た。最後に私は次のように言った。

——時の中央政府の権力、鎌倉幕府に抵抗した日蓮がそんなに偉いのであれば、それを信奉する創価学会員、同会を基盤とする公明党の皆さんは、卑怯で醜く穢きたない体質の今の自民党に対して、毅然として強く対峙すべきだが、唯々諾々・ペコペコでべったりではないか、そのことからは何も日蓮から学んでいないではないか。（私の政治信条は無党派）他方で真言宗や四国遍路に対して偏見を持っている姿勢・態度は、極度に偏っており、かつ文字に溺れた空理空論なのだ。そんなにも日蓮が立派な教えというのならば、それを学んだ貴方は現実の社会に活かして改善して行く、変革して行くという実学の実践でなければ、それは偶像崇拜というものだ。四国遍路は今始まったのでは無い、純粹歩行へんろ、公共交通機関利用歩行ミックス派、マイカーオンリー派、バスツアー派、レンタカー派、先達同行派、グループ派、それらのハイブリットタイプなど社会的身分に関係無く、様々な人達が様々な手段で四国88か寺を参拝・参詣して来た長い歴史が積み重なっているのだ。真言宗と言う狭義の宗教論をかざして巡拝している人はまずいない。ましてや特定の宗教(例えば日蓮宗など)に対抗するために巡拝しているなどと言うことは全く無いのだ。そのように地球規模の豊かさを持った人達が四国88か寺霊場に関わって来たのだ。四国遍路の文化は創価学会などの1宗1派によって、右往左往し、変質・瓦解するものではない。——（喋った時の言葉を録音し、後日活字化した。）

ただ、相手の話し方が過激では無かったことから、私も暇つぶしに1時間も会話を継続出来たのだ。

.....
以上の同様のことは、第1回目へんろの時にも遭った。誰かも本に書いていた。

以上のような行動は、個人の意思に基づいた啓発活動のつもりなのか、それとも、組織的な指示に依るものだろうか、特に創価学会は遍路に対して何か格別の敵対意識を持っているように思われるが異常な組織に写った。狂信的な異常性格者を抱えている集団は社会にとっては「百害あって一利なし」困ったものだ。

(2) 歩きへんろは究極の非日常性／遍路は『1人で歩く』べし

52日目5月31日（金）、旅館吉野において上越市の小池さんとの懇談がとても印象に残った。歩くへんろとは何ぞや？ そのものの遍路とはなんぞや？ 本質に迫る問題提起と捉えた。（以下、相手をK、私をOと記述する。）

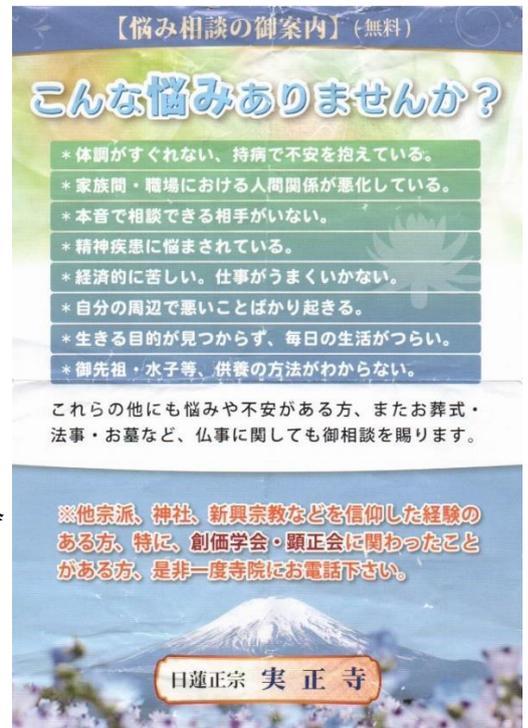


図-26

K；今回は88か寺順打ち、5年前以来の2回目である。その時は成就感（達成感）が無かった。2回目と言ったが、1回目みたいなものだ。

O；なぜ？

K；（概要を語り始めた）1回目も1番霊山寺スタートの順打ち、60番からある男と知り合い意気投合して、その後ずっと2人で共に行動し88番大窪寺で結願した、さらにはお礼参りで高野山まで同行した。

O；分かった、達成感・充足感を得られなかった原因は2人で行動したからだろう。

K；大沼さん、ずばりそのとおりと分かった。

O；そんなのは当たり前、生まれる時は1人、死ぬ時は1人、へんろはその中間の擬死再生の修行というのではないか。歩きへんろは自ら作った究極の非日常性なのだ、覚悟は出来ているはずだ。自己責任のつらさ・不安を乗り越えてこそその満足感だろう。共に行動すれば、トイレに行くにしても、休憩するにしても、あらゆる行動の折に触れてみんな相手に伺う必要があるのだ。その気遣いが苦難を突破しようとする姿勢に邪魔をするのだ、相手に気遣うようになったら、共同行動の共有空間は2人のもの、換言すれば自分の思いの半分は相手から抹消されている空間となるのだ。

1人でスタートした歩きへんろはチームプレーでは無いのだ。野球やサッカーをすることと違うのだ。ただし、ツアーのように最初から複数で行動したのならば別だよ。仲間内複数行動はもはやへんろとは言わない、単なる、観光旅行・観光遊びである、そうならばそれはそれで十分な意義があるだろうが。（小池さんは終始うなずいてくれた。）へんろとは、私は次のようなものと捉えて直面して来た。

- ・1人でスタートした四国へんろは、歩きが仕事の究極の非日常性行動である。
- ・つらさ、不安、葛藤が交錯する2人自分（仏性と魔性）の格闘舞台である。
- ・全ての結果責任は自分1人が負う行動である。

と肝に銘じて行動しているのだ。殆んどの方は、知人・友人と日常生活同様に電話で長々と喋っている、安普請部屋の壁越しにみな聞こえる。日常生活を引き摺った巡拝、娑婆のごたごたと愚痴を持ち込んだ巡礼は、煩悩俗世・娑婆のコピーと同然、もはやへんろとは言わない。（喋った時の言葉を録音し活字化した。）

.....

<後日談／遍路は最低『歩く』べし>

前記に関連すること、本報告書を整理中のさ中、2024(R6)年6月25日（火）NHKBS20時から新日本風土記「四国八十八カ所巡る花遍路」の放送があった。ある夫婦が88番大窪寺に結願する場面において「四国遍路はバスツアーで10年間の間に5回結願した、しかし、全然感動が無かった。だから今回は歩くことにした。」この率直な心境はこの夫婦だけでは無いだろう、無いと断言出来る。

前記したが、遍路・寺回り・巡礼の交通手段は様々ある、しかし、自分の全身を投入した歩きへんろでなければ、感動が沸かないのは至極当然のことなのだ。ツアーでは、ご朱印を貰う納経帳はバス会社の担当が一抱えして納経所に行き、各個人は寺側担当の墨書・押印を見ていないのだ。つらいつらい思いをしてやっとの思いで札所に着き、御経を読誦し、その印として、納経帳を納経所の窓口に差し出して、朱印を貰って初めて、その節目の達成感があるのだ。バスツアーとか、マイカー利用などの安直な遍路は、繰り返すが、朱印帳を埋めたというだけの表層的・一時的な思い出に雲散霧消してしまうのだ。放送の中で、歩きへんろは1割程度というナレーションがあったが、実体は、始終全区間を歩いた純粋なへんろ人はその中の半分に満たないだろう。

.....

遍路には様々な手段・バリエーションはあってもいいが、前記から学ぶことがある、しがらみや腐れ縁でごたごたしている娑婆をへんろに持ち込んで・引き摺っては真に納得の行く満足感、達成感、成感感は絶対に味わえないのだ、中途半端感で終わっちゃうのだ。四国八十八か寺霊場の雰囲気丸ごとを体感したいならば、へんろは究極の非日常性と思うべしである。

非日常性舞台とは $\left[\begin{array}{l} \cdot 1人こそ！ \\ \cdot 歩いてこそ！ \\ \cdot 日常娑婆とは断絶してこそ！ \end{array} \right]$ の時間・空間の使い方である。

(3) 全身びしょ濡れの中での学び

52日目5月31日(金)は12番焼山寺越えの長い山道ハイクであるが、スタートの植村旅館から雨具を着用、雨足が強弱する中で12番を打ち、そこから11 藤井寺までは約12km(約4時間20分)の山道、一旦急坂を下って、二つの山を上り下りして行くルート。ますます雨が強まって来た、途中からはどしゃぶりとなった、山道は一部川流れ状態となった。汗も加わって全身びしょ濡れである。この山道は陰しく「遍路転がし」といい、一般的な順打ちにおいては、最初の試練であるとされる。これを無事乗り越えられれば自信が付くと励まされるのだ。

藤井寺に着いた途端、小ぶりになった。ほっとした時浮かんだことがあった。下西忠著「御詠歌でめぐる四国八十八ヶ所」(明石書店)に書いている各寺院には伝わる御詠歌(5・7・5・7・7の31文字で綴った和歌)を見ていたが、藤井寺の御詠歌「色も香も無比(無非)中道の藤井寺 真如の波の立たぬ日もなし」が浮かんだのだ。ネットを参考にすると、天台大師智顛が講述した摩訶止観上の一文「一色一香無非中道」から取ったものという。また、前出書籍を参考にしつつ私の思いを記述する。[直接的口語訳] 一色一香中道に非ざる無し、つまり、見えることと匂いを感じることは、本来は別々のものだが、その本質は不二一体なのだ、その不二ではないが藤井寺の美しい紫色の藤波を見ると、真実の姿が見えないことは無い。法界(一切の現象の本質的な姿)の実相の理(真理)は、一色一香ごときの些細な「もの・こと」にも普遍しており、ありとあらゆるものは悉く中道実相の表れないものはない。真如は一切存在の真実の姿という意味である。思うに、中道は文字のとおりで、どんなもののいずれにも偏らない・片寄らない、何かに固執・執着しない融通無碍の中に得られる至高の世界をいう。心の安寧は、何か一物に縛られない至高の自由を獲得した心境の中に生まれるのだと思う。その「中道」はごちゃ混ぜの中で苦悶し、私の深奥に住む「仏性(良心)と魔性(邪心)」の、「仏魔同居」の2人自分の格闘・切磋琢磨から生まれる良知が誘導してくれると確信した。

豪雨の中だけでは無いが、「歩くが仕事」の毎日においては、ただ黙々とひたすら歩いていると、**人生全般が浮かんでは消え、消えては浮かぶ。不道德なこと、不埒なこと、卑猥なこと・・・それらを正義感如きものであえて潰さない、わざと浮遊させる、時に放心状態となる、一時いつとき神秘体験のような世界観となる、この繰り返しである。私のへんろは「歩禅道場」である、黙々と歩くだけの道場である、すなわち、「立ち禅修行」なのだと自覚するようになる。まさに、禅の曹洞宗の坐禅は「只管打坐」(ただひたすらに坐る)に通じるものがある。**

四国へんろとは何か、図-27aのと通りの「心をあらい心をみがくへんろ道」(弘法大師空海の言葉という説が有力)に収れんする。1日に8時間以上を何日も歩き続けると無心になる、無心が続けば自ず



図-27a



図-27b

から心が洗われる。同 **b** のとおりの人生即遍路（俳人種田山頭火の言葉か）、遍路即人生である。両方ともへんろの神髄を表すフレーズだ。

へんろ道（山道）に入ると、裏に道普請に協力したボランティアの名前を記したこのようなプレートが沢山下げられていた。まさにへんろは弘法大師空海の教える「中道正観」と結ばれて来る。

【おわりに】

75歳にして行った今回の遊学紀行（4回目四国へんろ）は、70歳2019(R元)年「四国^{たてぶいよこいち}縦V横一登山へんろ」以来5年ぶり、この度のような順礼四国へんろとしては69歳2018(H30)年3回目へんろ以来6年ぶりの取組みとなった。同じ108か寺対象（順打ち）の1回目四国へんろ66歳2015（平成27）年においては43日間で回ったが、今回は、四国内だけで実質54（54－滞留日2日＋周回2日）日間を要し11日間も上回った。今回は逆打ちで順打ちとは異なるといえども日数が掛り過ぎという思いである。9（75－66）年間経過したが、体力・スタミナの衰えはじなかったものの、靴擦れを患った時の気持ちの向き合いで問題を感じた、1回目の時とは異なり、慎重というか何か弱気を感じた。ただ、時間を要した分だけ、ゆとりを持って境内観察を行うことが出来た、また、行き交う多くのへんろ仲間と、道すがら、宿で思う存分会話・対話することが出来た。70歳を過ぎてもへんろ人はみんな元気潑刺、根明^{ねあか}が多い、気魂と情熱が伝わって来る。多くのユニークな人達との我を忘れた会話はとても楽しかった。また、この四国へんろの報告とお礼参りに高野山を往復したが、75歳の誕生日をその高野山の中枢部で迎えることが出来たのは真に有意義であった。誕生日が高野山にぴったり嵌まったのは、狙ってはいたものの行程上の偶然に近かった。

1日10時間を越えた日は5日間あったが、疲れ・倦怠感は微塵も感じなかった。こむら返り（足がつか、ケイレン）もなかった。どうしても貫徹したいという意志の自噴連鎖を感じた。また、心のスタミナも切れることは無かった。75歳の吾ながらアツパレと思うが、ただ歩点を繋ぐことだけに無我夢中になったからであろう。

108札所となれば1,500km近くの距離で50日間超になるだろうとは思っていた。歳も歳だし88か寺に抑えようかとも過ったが、1回目108順打ち、2回目88逆打ち、3回目88順打ちとくれば、調和の妙、108逆打ちしかないなあと思ひ敢行し叶った。一時、コミュニティ・家庭をすっかり忘れて地では心から楽しむことが出来た。特別のことをやった訳ではないが、本当に良かったと率直に思っている。

そこで、みんなまとめて、私の四国へんろは、

『**壮大な自己格闘塾**』

『**対等互啓（恵）の華嚴ワールド**』

『**ダイバースティ叡智の海（多様雑多・ごちゃ混ぜの妙）**』

の不思議な世界観を堪能して来た。

一生にたった一度の人生、少なくなった残余の命、今こうして思うに、**私自身内の最大の敵は「扇形^{せんけい} selector”** **大好き鬼、“自由”を縛る悪魔**」であります。**桎梏ア縫児^{しっこくあほうじ}**（自らが自らを縫って手かせ足かせ、身動きが取れない、つまり、思想信条が偏頗している状態）になって窮境に墮落することは一番の不甲斐なさとする。

自称「彩色性多重人格」の私は、人生ボーダレス・フリーウェイ（Borderless Freeway）！

徹底的に「freedom Freedom FREEDOM」で生き、逝きたい。

「freedom（自由・無碍） flexibility（柔軟・弾力） fantasy（夢・希望）」で生き、逝きたい。

(完)

2024（令和6）年12月31日（火）

山形県山形市上桜田

☎080-3338-3738

✉dreamyok@hotmail.co.jp



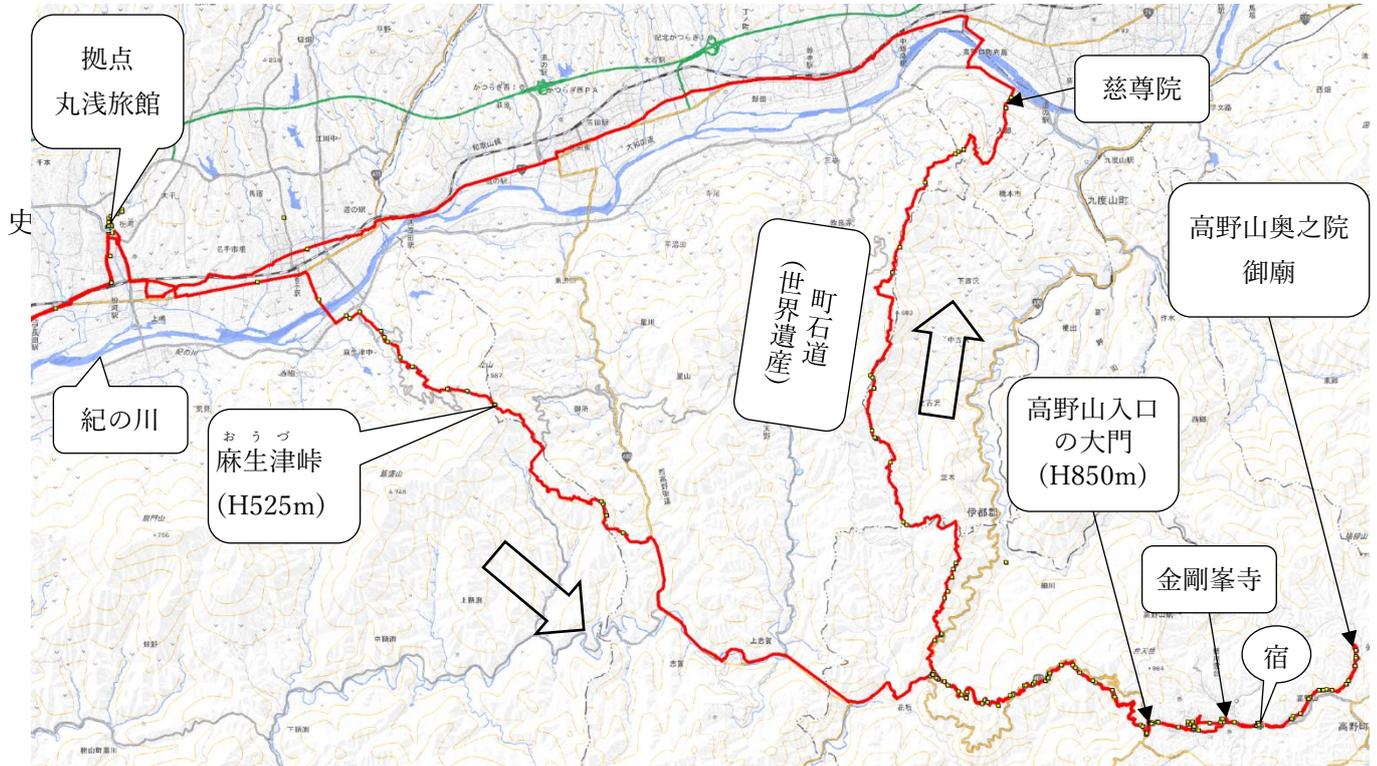
付 随 資 料 集

報告書本文を補完する内容を付随資料とした。

通し番号	項目名	頁
付随資料 1	私の誕生日は高野山参り	2
付随資料 2	遍路墓のこと	3～5
付随資料 3	ピックアップ写真（一部）	6～7
付随資料 4	心を言葉に	8～12
付随資料 5	一度は！ お勧めしたい四国霊場歩きへんろ	13～15
付随資料 6	四国遍路世界遺産登録に向けた取組みへの提言	16～19
付随資料 7	山形新聞記事掲載と講演	20～19

付随資料1 私の誕生日は高野山参り

6月6日(木)は私の誕生日、丸浅旅館を5時20分に出発し、高野山中最強の激坂とも称されるおうづ麻生津峠を越えて、町石道に合流し、高野山に至った。紀の川の標高は約41m、高野山の標高は800m超である。夜は宿坊の成福院に泊り、食事は写真のとおりである。これで夜食のみで15,500円であった。豪華そうに見えるが、何のことはなく普通の精進料理であり、私にとっては高い宿泊代と感じたが、考え次第、誕生日に相応しいもてなしを賜ったと納得した。



翌日6月7日(金)は5時50分発、道そのものも世界遺産となっている「町石道(基点は壇上伽藍、全長約22km、99%は山道)」を下り、慈尊院を經由し、丸浅旅館に至った。もちろん同旅館には荷物の一部たりとも預けず、全部を背負ったのは言うまでもない。

付随資料2 遍路墓のこと

まずは (<https://ohenro-88.com>) を参考にする。

現在は観光気分で気軽にお遍路に行けるようになったが、昔は死を覚悟した厳しい修行であった。食べ物、水、宿の確保は今より困難な状況であった。厳しい環境に身を置いて精神や肉体を鍛えていたのである。死と隣り合わせだったお遍路は、死に装束である白衣、卒塔婆の代わりとなる金剛杖、棺桶の文字が書かれた菅笠を最初から身にまといお遍路をしていた。どこで息絶えても成仏出来るようにという考え方。途中で行き倒れてしまう人（今でいう「行旅死亡人」）が多数いた。道半ばにして無念、故郷に帰れなかったのだ。そのような人は地元の人によって埋葬され、お墓が作られた。このようなお墓は「遍路墓」と呼ばれている。地元の人が遍路墓を子孫へと語り継いで、管理を行っているために現在でも残っている。八十八ヶ所の札所やその周辺の札所にはお遍路中に亡くなった人の記録が過去帳として残っているケースもある。徳島県の19番札所立江寺から23番札所薬王寺の間では1700年代～1800年代に156例の客死遍路の記録が発見されたという報告があるという。

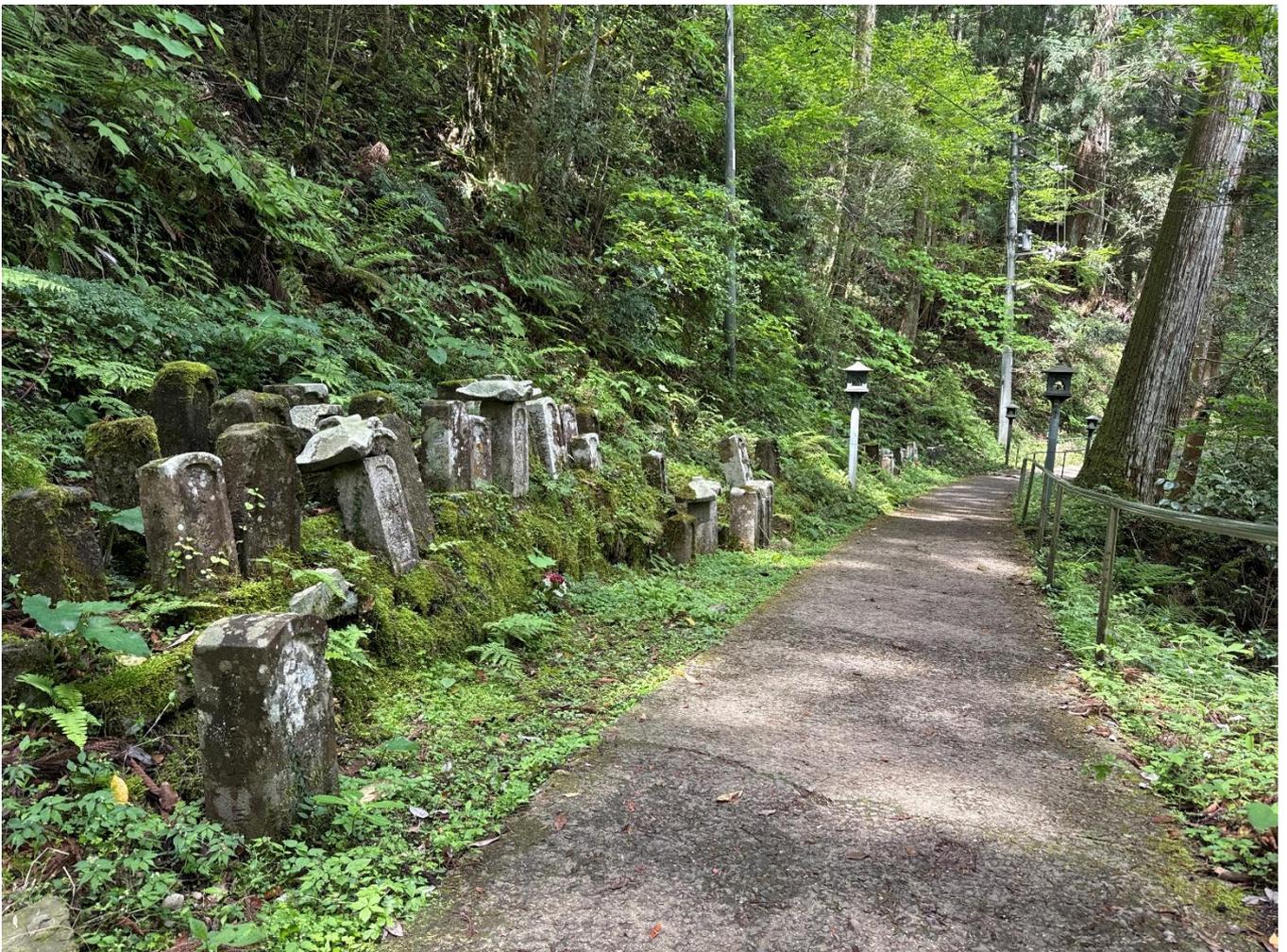


図-①

さぬき市前山にあるへんろ資料館（おへんろ交流サロン）の館長日記を参考にする。平成23年頃に県内の遍路道を踏査して、遍路道沿いにある遍路墓を調査した。前提としては、墓石に生国（生まれた国）を刻んでいるものを遍路墓としたが、その結果、400基を越える遍路墓を確認し、ほとんどが江戸時代のものであったという。

図-①は本札 45 番岩屋寺に至る登りの道沿いにあり総てが遍路墓である、僧職の方に再確認した。
図-②は今となっては街中になったが「四国遍路無縁墓地」(愛媛県今治市)と銘打っている。



図-②

他の札所の関係者や地元の人達にも聴き取りしたが、へんろ道(山道)に立ち入って、死亡した人の墓である。本文 25 頁に寺の若き坊主——僧職(見習い) 4 人に会ったことを記述したが、その中の一人と遍路墓が話題となり、山形県西川町の月山に至る参詣古道「高・清フレンドリー古道」に存在する墓石のことを取り上げて写真を見せた処、山中にある墓という点、墓石の状態、安置された環境はまさに遍路墓に類似し、その道に、その地に行ったからこそその墓の安置・建立であると共通認識で一致した。へんろに行きたいという希望・願望に基づいて、あるいは、その人の思いを汲み取って、現地に行かないのにも拘らず、山中に墓標を置いたというのでは無い、有り得ない。繰り返すが、**その道に踏み入れたことを証明するれっきとした証拠・証左**である。

あちこちに散在している遍路墓に巡り合い、難行苦行の壮絶な修行道場というイメージが押し寄せ、涙が零れて仕方がなかった。

図-③はその他の比較的纏まった所の遍路墓である。



図-③

前段の西川町『高・清フレンドリー古道』調査に係り「月山東南エリアに女人結界の有りや否や」について纏めて、facebook等に公表しているが、おかしり絵馬のような奉納という意図を持った絵馬に準ずるもの、あるいは、絵馬の意味合いから派生した仮想墓石のようなものでは無いということは明白である。厳粛な「死」と一体、その人の尊厳を弔う墓標である。逆に墓標たる墓石のある周辺で死去したという証拠である。

(end)

付随資料3 ピックアップ写真（一部）



私の姿



会話したへんろ仲間



へんろ宿、宿のマスター



へんろ道 (山道)



休憩所／東屋



丁石と町石 (下段は町石道／世界遺産の一つ)

2. 自由詩に

[へんろ旅人] ～「縁むすび音頭」の替え歌に活用

原曲タイトルの「縁むすび」の言葉そのものがへんろ仲間との繋がりに結ぶ。

なお、原曲の作詞は吾が地元町内会の遠藤健二さんである。

歩く毎日歩きが仕事 何が目的問い詰める
答え浮かばず辛抱我慢 涙零れるへんろ道
へんろ旅人 ころろ波立ち 縞模様
心広々老若男女 四国札所に集い来る
へんろお宿に和みが染みる みんなの持ち味リスペクト
へんろ旅人 一期一会を 語り合う
へんろ魔力のルツポにはまり 神や仏と渦を巻く
天地人との境目失せた 不思議世界へ溶けて行く
へんろ旅人 娑婆に戻りて 清々し

3. [身の丈全智放出物語] ～「人生流れ雲」の替え歌に活用

原曲タイトルの「流れ雲」の言葉そのものがへんろ仲間と行雲流水虹道場に結ぶ。

みなの特技を見たいから
強み隠さず持ち寄った
もっとないかとおねだりすれば
恥ずかしそうに捻り出す
一つだけよと披露する
拍手喝采投げ銭祭り
新味きずなが生まれ来る

四国へんろを憧れで
意味なく訳なく歩いたよ
へんろお宿に蓮華咲かせ
初顔だけど何のその
心尽くしてさらけ出す
謎の靈気に背中を押され
身の丈奮い出し切った

持って生まれた才能は
宝ものだと思ふなり

使いきれずに仕舞って置いた
全智を絞り世に返す
みんな空っぽ爽やかさ
お世話になった皆様へ
御礼感謝をありがとう

4. ちょっとお遊び

(1) 良寛の句に連歌してみた

「散る桜 残る桜も 散る桜」 永遠とわにに咲かせて 見ようぞ桜

「裏を見せ 表を見せて 散る紅葉」 離れし幹に 命を描いた

(2) 小林一茶の句に連歌してみた

「かたつむり そろそろ登れ 富士の山」 水無月みなづき逝く日 富士の頂き

「へんろ旅人」 (替え歌； 原曲は”縁むすび音頭”)

1. わか - い さ - くら が ほ - ころ びに おう ちよっ とお めかし
 ある - く ま - いに ち あ - るき がし ご と なに がも くて き
 ここ - ろ ひ - ろび ろ ろ - うにゃく なんによ しこくふ だしょに
 へん - ろ ま - りょく の ル - ツボ には まり かみ やほ とけ と

か - おあ - わ - せ はなしはずんでわらい - もつづく あお - ば
 と - いつ - め - る こたえう かばずしんぼ - うがまん なみ - だ
 つ - どい - く - る へんろお やどに なごみ - がしみる みな - の
 う - ずを - ま - く てんちひととのさかい - めうせた ふし - ぎ

わか ぼの め - もふ - い - て えん - を - - とり もつ
 こぼ れる へ - んろ - み - ち へん - ろ - - - たび びと
 もち あじ リ - スペ - ク - ト へん - ろ - - - たび びと
 せか いへ と - けて - い - く へん - ろ - - - たび びと

えん をと り - もつ う - れ - - し - - - さ - よ -
 こころ なみ - だち し - ま - - - も - - - よ - う -
 いち ごい ち - えを か - た - - - り - - - あ - う -
 しゃば にも ど - りて す - が - - - す - - - が - し -

歩く毎日歩きが仕事 何が目的問い詰める
 答え浮かばず辛抱我慢 涙零れるへんろ道
 へんろ旅人 ころろ波立ち 縞模様

心広々老若男女 四国札所に集い来る
 へんろお宿に和みが染みる みんなの持ち味リスペクト
 へんろ旅人 一期一会を 語り合う

へんろ魔力のルツボにはまり 神や仏と渦を巻く
てんちひと 天地人との境目失せた 不思議世界へ溶けて行く
 へんろ旅人 娑婆に戻りて 清々し

(註1)原曲の楽譜は「縁むすび音頭」

作詞・遠藤健二、作曲・遠山敦。楽譜直下の
 歌詞は同楽曲の一番である。

(註2)替え歌の詩は大沼香作 2024(R6)年
 6月30日(日)

「身の丈全智放出ものがたり」

(替え歌；原曲は”人生流れ雲”)

ゆめと — いう な³の — たか — ら — も の か — ぎる ころ — の —
 みの — とく ぎ — を — みた — い — から つ — よみ かくさ — ず —
 しこく — へん ろ — を — あこ — が — れ で い み なく わけな — く —
 もつて — うま れ — た — さい — の — う は た — から ものだ — と —

どま — ん — な — か かぜにふかれて さすらうときも おと こは まえだけ — —
 もち — よ — た もつとないかと おねだりすれば はず かし そ — う に — —
 ある — い — た — よ へんろおやどに はすはなさかせ はつ がお だけ — ど — —
 おも — う — な — り つかいきれずに しまっておいた ぜん ちを し — ぼり — —

むいて ゆけ — おれの — じ — ん せ — い なが — れ — ぐ も あす
 ひねり だす — ひとつ — だ — け よ — と ひろ — う — — する はく
 なんの その — ころ — つ — く し — て さら — け — — だす なぞ
 よにか えす — みんな — か — ら っ — ぼ さわ — や — — かさ おせ

が まつて — る — ゆう ひ のむこ — う あつ³い³ちしおが も え て く — — — る
 しゅかっさい — なげ せんまつ — り しんみきずなが う まれ く — — — る
 の れいきに — せな か をおさ — れ みのたけふるい だ し き っ — — — た
 わになつた — みな み なさま — に おれい³かん³しゃを あ り が と — — — う

みなの特技を見たいから
 強み隠さず持ち寄った
 もっとないかとおねだりすれば
 恥ずかしそうに捻り出す
 一つだけよと披露する
 拍手喝采投げ銭祭り
 新味きずなが生まれ来る

四国へんろを憧れて
 意味なく訳なく歩いたよ
 へんろお宿に蓮華咲かせ
 初顔だけど何のその
 心尽くしてさらけ出す
 謎の靈氣に背中を押され
 身の丈奮い出し切った

持って生まれた才能は
 宝ものだと思ふなり
 使いきれずに仕舞って置いた
 全智を絞り世に返す
 みんな空っぽ爽やかさ
 お世話になった皆様へ
 御礼感謝をありがとう

註1；原曲の楽譜は「人生流れ雲」
 作詞・かず翼、作曲・小田純平。
 楽譜直下の歌詞は同楽曲の1番
 註2；替え歌の創作詩は大沼香作
 2024(R6)年6月30日(日)

付随資料5 一度は！ お勧めしたい四国霊場歩きへんろ

88か所全部の札所を歩きで繋ぐとなると1,200km、45日間前後は必要となる、なかなか、平易に行えるものではないだろう。その中でも、四国霊場雰囲気味わえる代表的エリアは見付けられる。どんな移動手段であったとしても、現地では最低二泊三日の歩きへんろを3回位やって見たらどうかとお勧めする。自家用車で行くのもよいだろう、レンタカー利用もよいだろう、もちろん、鉄道・バスなどの公共交通機関を利用するのも有りだろう。

現地滞在は、現地移動日も含めると12日間くらい、自宅からの移動日を含めると2週間（約15日間、半月）くらいだろうか。ただし、その場合は、へんろ情報はインターネット上に満載されていることから、計画は全て自分でやること、一度はやって見たらどうか。違う世界観が広がること間違いなしであろう。私からアドバイスすることは一向に差支えは無いが、事前計画、現地対応も不安を抱えつつ自ら思案する中に楽しみが、充実感が生まれるものだ。誰かに作って貰った、設えて貰った舞台に飛び込むのは一見楽そうだが、面白みが湧かない。報告書本書の中でも強調したが、一人で行くこと、複数ならば夫婦で、このどちらかに限る。

さて、山形県内出羽百観音霊場との違いは、札所寺院や境内の規模においては、全般的に四国の方が大きいかもしれないが、中には、出羽の方が大きいものもあるだろう。巡礼寺の姿、身に付ける用品（支度品）はほぼ似ている。

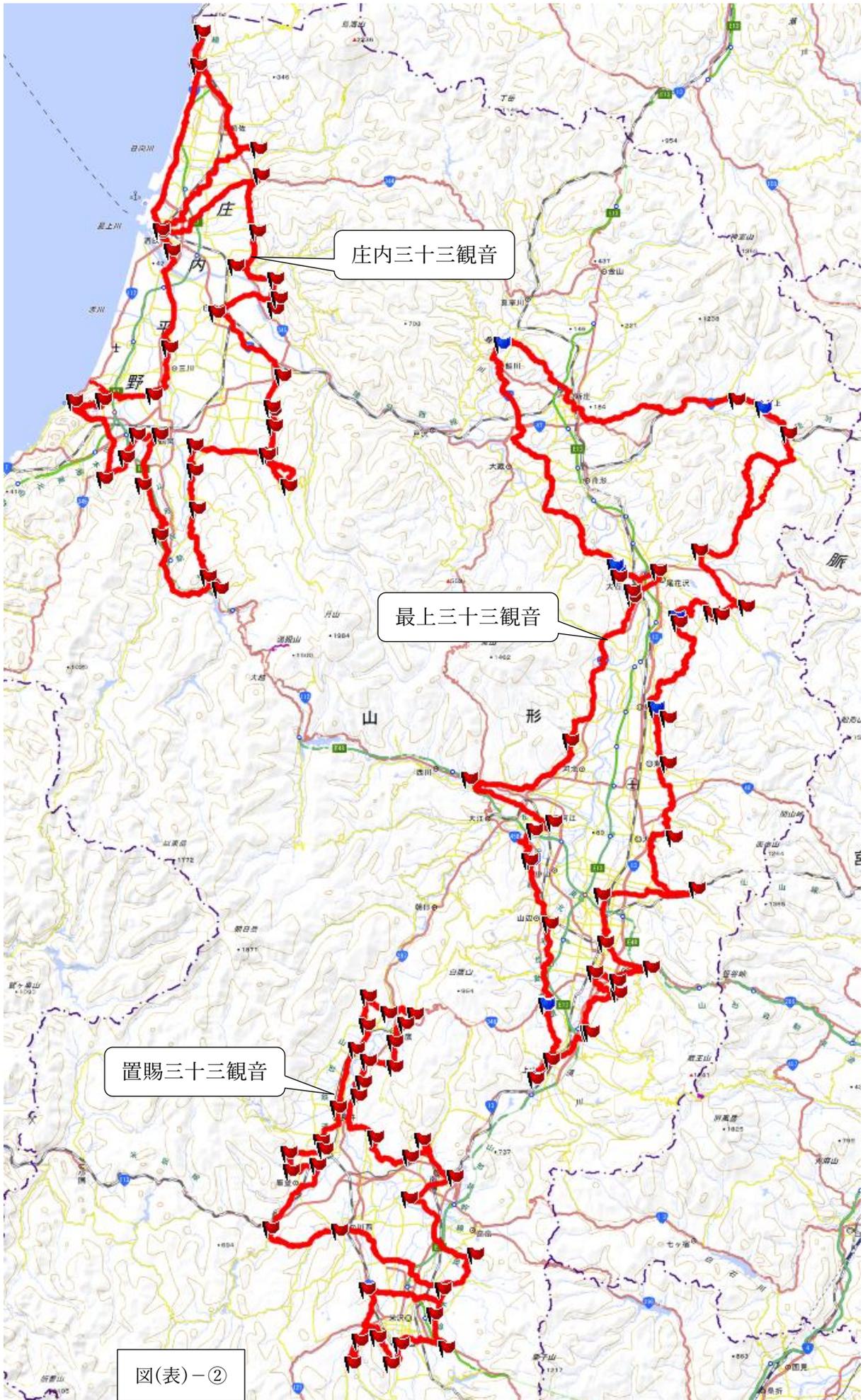
出羽百観音霊場と四国88か寺霊場の主要項目比較表は図(表)－①のとおり。出羽の方がほぼ2倍強の過密ということになる。なお、出羽百観音を一气通貫で繋ぐとすれば、当然距離は加算なる。

山形県1県 100か寺			四国4県 88か寺 (22か寺/県)	
巡礼霊場	一周距離 (概算)	所要日数 (25km/日)	一周距離 (概算)	所要日数 (25km/日)
最上三十三観音	311km	13日間	1,300km (325km/県)	52日間
庄内三十三観音	240km	10日間		
置賜三十三観音	184km	8日間		
計	735km	31日間		
札所間間隔 約7.4km			札所間間隔 約15.0km	

図(表)－①

出羽百観音霊場のエリアは図(表)－②のとおり。

私にご朱印は集めていないが、車では百観音巡礼（お参り）を果たしている。



納経時の御経は図(表)－③のとおり、納経料・市納金は図(表)－④のとおり。

四国も最上（出羽）も御経を挙げつつお寺を回る（巡礼）という面では同じ様相である。したがって、四国に行ったとしても、車利用では何も変わらないではないか、“何だ、ただの寺回りか？”となる。まったく感激は湧かないであろう、（あえと言うが、断定出来る）、だから、一人の歩きへんろを推奨するものである。

霊場	お経	参照した組織
四国八十八か寺 (番外含めて共通)	合掌礼拝、開経偈、懺悔文、三帰依文、十善戒、発菩提心真言、三昧耶会真言、般若心経、ご本尊真言、光明真言、ご宝号、回向文、合掌礼拝、御詠歌またはご和讃	四国八十八ヶ所霊場会
最上三十三観音 (出羽百観音)	合掌、般若心経、観音経、十句観音経、本尊名号、回向文など	最上三十三観音札所別当会
図(表)－③		

	四国（納経料）／88所		出羽（志納金）／100所	
	単価	合計	単価	合計
掛け軸	700円	61,600円	500円	50,000円
納経帳(朱印帳)	500円	44,000円	300円	30,000円
白衣（3印）	300円	24,400円	300円	30,000円
図(表)－④				

出羽百観音はピークハント型・ピンポイント型の巡礼、四国霊場は靴紐ニッティング型・ブーツストラップ型（天地人と寺を編む）の巡礼と自称する。前者は歩き巡礼に配慮した環境を提供していない、車で来てくださるの世界である。後者（四国）は車だけではなく「歩くへんろ」の有り様も大きく位置付けている、出羽百観音と四国霊場は似て非なるものである。

四国へんろは季節的に、3月下旬から6月初旬が好適である。

四国へんろを丸ごと体感したいのであれば、究極の非日常性舞台と観念し、

- ・一人でこそ！
- ・歩いてこそ！
- ・日常、娑婆とは断絶してこそ！

で臨むこと。

付随資料6 「四国遍路世界遺産登録に向けた取組みへの提言」の写し

『四国八十八箇所霊場と遍路道』世界遺産登録推進協議会 御中

2024(R6)/07/31 送付済

(山形県民) 大沼 香

以下4回(別年4巡)のスルーハイク歩きへんろを経験(通し打ち実査)した中で、多くのへんろ仲間と意見交換したことを踏まえての共通の提言です。

1. 遍路道と交通事情のこと

いわゆる遍路道ルート(8割から9割)は舗装した公共道路を歩くこととなります。

公共道路の遍路道ルート(少なくとも貴会で紹介している遍路道とトイレ位置案内図のルート)においては、少なくとも片側には、ガードレールで区切った歩道を設置すべきです。

歩きへんろ人だけに特別の配慮が欲しいとは言わないが、歩行者に対する車の運転手のマナー向上を徹底教育すべきです。特に雨降り等はそうであるが、歩道がない区間で道路端ぎりぎり歩いているのにも係らず、端を歩いていることをいいことに、溜り水を跳ね上げて行く、少しでもスピードを落とすというのは1割にも満たない感じでした。

屋根のある休憩所としての遍路小屋は大変助かる、有り難く思う施設であるが、トイレはわずか、ほとんど併設されておりません。

歩きへんろ人(宿派・野宿派)は、当然ながら滞在日数が長くなる、長くなるということは言うまでもなく、現地投下金銭(財貨)がより多くなることであり、大切にすべき客であります。

集客・誘客を主導する関係者皆さんは、歩きへんろ人(宿派・野宿派)に対しマナー云々と批判する前に、次の施策を以って改善・解決してください。まずは、あなた方の姿勢が問われます。

- ・主要遍路道ルートはトンネル内部を含めて、3年以内に全区間に歩道を設置する。
- ・遍路小屋には3年以内に全所に原則トイレを完備する。
- ・昔のルート、山道をもっともっと3年以内に復元する。
- ・四国4県の運転手の免許更新時に遍路人も含めた歩行者保護の徹底啓発を義務化強調する。
- ・同協議会の関係者全員、全区間の通し打ちを(全区間を一気通貫で歩いた)経験をする。
- ・現地への案内誘導表示は、逆打ちにも対応した表示、順逆の区別なく表示する。

このような改善対策無くして、世界の心ある人々に対して、胸を張って呼びかけ出来ますか。

2. 納経料のこと

(一社)四国八十八ヶ所霊場会は、下表のとおり、令和6年4月1日より納経料を改定、納経時間を変更しました。

	現 行	改定後	改定率
掛け軸	500 円	700 円	1.40
納経帳	300 円	500 円	1.67
大師納経	300 円	500 円	1.67
白衣	200 円	300 円	1.50
納経帳（重ね印）	300 円	300 円	1.00
霊場会用紙	310 円	500 円	1.61

多くの人が対応するであろう納経帳は 1.67 倍です、世の中、いくらものの値段が上がった、人件費が上がったといえども、67%も一気に値上げしたところはありませんか。私は 4 回目の今回は印取白衣を以って納経したが 1.5 倍です。その押印する時の納経所担当者の誠意無い不遜な態度に出くわした、きれいに押印するために押印個所の下に板類を置いた処は 108 か寺中 3 個所だけでありました、中には隣の同僚としゃべりながら押印した処が 1 個所ありました。

このような状況に同霊場会の傲慢さを感じました。

3. その他

同協議会事務局を四国 4 県の行政と様々な錚々たる民間団体で構成しているようですが、何をしているのですか、多額の寄付金を貰っているようだが、何に使っているのですか。単なるパンフ作製で終わっているのではないですか。事務室に籠って机上の空論、文献知に終始していませんか。

何よりも、事務局構成員は、自ら歩いて現場、現地の実情を確認してください、現実的な改善対策を実行すべきです。徹底した三現主義を以って、実際に歩いている遍路人に供する環境作りに努力してください。安直なバスツアーやマイカー巡礼に傾注するようでは、今以上の何かをする必要はないでしょう。

同協議会としての自らの問題意識で整理した具体的課題とその改善策のスケジュール・プログラムを HP にきちんと公開してください。

現状では、四国遍路世界遺産登録は反対であります。

< 添付資料 大沼香；過去の四国へんろ（霊場巡礼）一覧 >

以上

〒990-2421 山形県山形市上桜田三丁目 1 番 15 号

大沼 香（かおる）

連絡先 携帯；080-3338-3738

メールアドレス；dreamyok@hotmail.co.jp

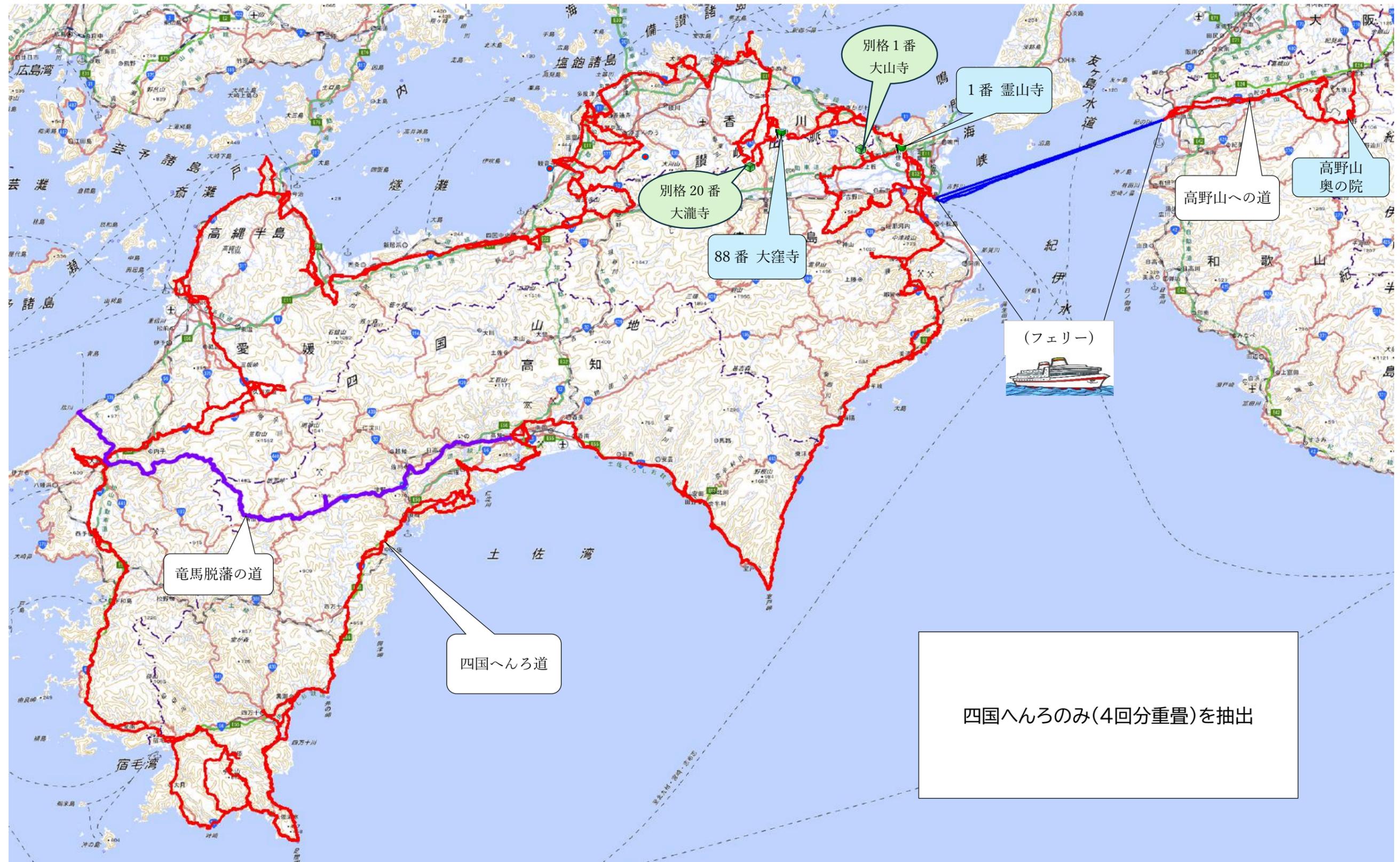
大沼番;過去の四国へんろ (豊島巡礼 総て通し打ち) 一覧

1回目四国へんろ/108・順打ち		2015 (平成27) 年/66歳			
前程	自宅発 高野山に挨拶参り 移動日	3月30日(月) 〃 3月31日(火)			
本番行程	現地 108か寺参拝	4月1日(水)~5月13日(水)	現地43日間 1,446km	door-to-door 47日間	
後程	高野山に報告 自宅着	5月14日(木) 5月15日(金)			
備考	意を決して初めての四国スルー・イクへんろ、初回ながら欲張って本札88か寺と別格20か寺の計108か寺を通し・順打ちで参拝した。88番から1番に大坂越へ戻った。				
2回目四国へんろ/88・逆打ち		2017 (平成29) 年/68歳			
前程	自宅発	4月3日(月)			
本番行程	現地 88か寺参拝	4月4日(火)~5月14日(日)	現地41日間	1,440km	door-to-door 49日間
(特別行脚)	坂本龍馬脱藩の道 ウォーク	5月16日(火)~5月21日(日)	現地6日間		
後程	自宅着	5月22日(月)			
備考	本札88か寺のみの通し・逆打ちに挑戦 札打ち終了後 1番から88番に大坂越へ戻った。5月15日(月)の移動日において、坂本龍馬脱藩の道 トレイルを敢行した。				
3回目四国へんろ/88・順打ち		2018 (平成30) 年/69歳			
前程	自宅発	4月2日(月)			
本番行程	現地 88か寺参拝	4月3日(水)~5月16日(水)	44日間	1,322km	door-to-door 51日間
(特別行脚)	高野山参り	5月17日(木) ~5月21日(月)	5.5日間		
後程	自宅着	5月22日(火)			
備考	本札88か寺のみの通し・順打ち、88番から1番へ戻り、引き続き高野山奥の院まで歩いた。				
今回; 4回目 (今回) 四国へんろ/108・逆打ち		2024 (令和6) 年/75歳			
前程	自宅発	4月9日(火)			
本番行程	現地 108か寺参拝	4月10日(水)~6月2日(日)	現地54日間	1,591km	door-to-door 65日間
	高野山往復	6月3日(月)~6月9日(日)	現地7日間		
	1番~88番	6月10日(月)~6月11日(火)	現地2日間		
後程	自宅着	6月12日(水)			
内3日間は滞留日、2日間は移動日、現地へんろ対応期間60日間					
備考	108か寺の通し・逆打ち、1番で満願後 高野山奥の院まで全徒歩により往復し、四国へ戻り、引き続き88番へ戻った。				

現地歩距離は、スマホアプリ「カシミール3dスーパー地形セット/開発者DAN杉本氏」(有料)によるGPSトラックログの記録である。

別年に行った四国へんろ **4回分** (本札 88 か寺+別格 20 か寺=108 か寺) の GPS トラックログ (足跡軌跡の**重ね・合成**記録)

前記4回に渡る四国へんろ——赤色実線は、携行したGPS機(ガーミン社製オレゴン650、iPhone15PROスーパー地形)の足跡(トラックログ)であり、4回分を重ねたもの。全ルートにおいてまったく同じ道ではないが、縮小しているのと同じ道に見えるだけ。このトラックログにおいて、3・4回目の徳島港から和歌山港間のフェリー利用を除いて全て歩行足跡である。



今回のへんろ終了帰宅後に山形新聞から取材を受けたことを踏まえた報道記事を掲載する。

山形新聞 2024年08月16日付 地域

(金曜日)

地域

山

形

新

聞

(第三種郵便物認可)

第49926号



四国歩き遍路の際に身に着けていた白衣を前に旅の思い出を語る大沼さん
＝山形市

全国の各街道も踏破 人生、歩みは止めない 大沼さん75歳、四国霊場4巡

山形 山形市上桜田3丁目の大沼香さんが

75歳の節目に、自身4周目となる四国霊場歩き遍路を4、6月に敢行した。今回は88カ寺と別格20カ寺の計108カ寺を逆の順番で行脚した。66歳から四国遍路を始め、これまで計1088日間に5331キロ歩いたことになる。「遍路の魅力は多くの人に伝えたい」と思いを語る。

大沼さんは、定年を機に「剣山2010年から本州の歴史街道を訪ね、14年までに青森―大阪間の31街道、約7千キロ歩いた。各ルートを一気に進むスルーハイイクが大沼さん流で、18年には京都―長崎間の各街道約1144キロを34日間かけて旅した経験もある。四国遍路を始めたのは15年。88カ寺と別格を加えた108カ寺について、順番通りの順打ち、逆からの逆打ちでそれぞれ巡った。

今回は4月9日～6月12日の期間に実質60日間歩き、高野山(和歌山県)にもお礼参りした。うるうる年に逆打ちを行うと他年の3倍の利益があるとのこと、約6キロの荷物を背負い、1日平均で8時間半、27キロ歩き続けた。最初の頃は靴擦

れに悩まされという「剣山を刺されたかのような痛みが次々と別の所に襲ってくる。それが2週間もすると不思議と落ち着く」と語る。同じ宿になった人たちが一期一会の交流を深め、中には山形市から訪れていた男性もいた。「先入観を持たず、バランスよく生きることに気付かされた」と振り返る。「家族から『何か変わったの?』と聞かれる」と笑うが、「家族の理解があつてこそできること」と感謝の思いを口にした。

10月に講演の依頼があり、四国遍路をテーマに経験談を交えて語る予定だ。今後は「西川の月山古道の調査・研究を深め、街道の旅や遍路での体験をまとめたい」と意欲は尽きない。(柳沢明子)

次頁以降は、2024(令和6)年10月5日(土)、健康終活クラブ(斎藤稔さん代表)の依頼で講演したものである。50名前後の聴衆者となった。山形市上桜田の遠藤健二さんが繋いでくれたものである。当日の配布資料と遠藤さんが撮影してくれた写真の一部である。

10/5(土) 終活・歴史講座 四国八十八か寺お遍路紀行

- 【主催】 健康終活クラブ（山形市／運営：一般社団法人学びと終活のサポートセンター）
 【日時】 10月5日（土）10：30～12：00
 【会場】 山形市緑町1-2-36「遊学館」3階第1研修室
 【講師】 大沼 香(かおる)氏（山形市在住）
 【受講料】 健康終活クラブ会員：無料 一般：500円（税込）※当日会場でお納めください
 【申込み】 このチラシ下部の【受講申込方法】をご覧ください、お申し込みください。
 【内容】 四国八十八か寺+別格二十か寺の霊場をたどる巡礼の旅「お遍路」の実録です。

阿波～土佐～伊予～讃岐の千数百キロに及ぶ参拝ルート of 全行程を、退職後4回（総歩行距離 約5,350km、188日間）にわたり、歩きへんろで巡った講師から、実体験に基づくお遍路の魅力と意義、道すがらの出来事と苦楽について紹介していただきます。講師が語るお遍路の不思議世界をお楽しみに！

- ・四国遍路入門
- ・おへんろは壮大な自己格闘塾??
- ・おへんろの魅力と意義
- ・トラブル、ハプニング



【受講申込方法】 講座名を記入しお申込み下さい。③ホームページの受講申込みフォーム

- ① FAX（氏名、住所、電話番号を記入。会員は番号と氏名を記入） → FAX 番号：023-684-8620
 ② メール（氏名、住所、電話番号を記入。会員は番号と氏名を記入） → kenko.club.yamagata@gmail.com



